

令和4年度採択 文部科学省
「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」

**「多職種連携とDX技術で融合した
北東北が創出する地域医療教育コモンズ」事業**

令和6年度 事業成果報告書

弘前大学

令和4年度採択 文部科学省
「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」

「多職種連携とDX技術で融合した
北東北が創出する地域医療教育コモンズ」事業

令和6年度 事業成果報告書

弘前大学

目次

事業責任者 弘前大学理事（教育担当） 挨拶	1
弘前大学大学院医学研究科長 医学研究科附属地域基盤型医療人材育成センター長 挨拶 ..	2
秋田大学大学院医学系研究科長 挨拶	3
1. 事業概要	5
2. 実施体制	11
3. 実施内容	15
4. 外部評価	57
5. 参考資料	61

事業責任者 弘前大学理事（教育担当） 挨拶

弘前大学は、令和4年度に文部科学省による大学教育再生戦略推進費「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」の拠点に採択されました。本事業は、秋田大学、弘前学院大学及び弘前医療福祉大学と連携し、「多職種連携とDX技術で融合した北東北が創出する地域医療教育コモンズ」をテーマとして、多職種連携教育を基盤とした総合的に患者・地域住民を診る資質・能力を持つ医療者教育により持続可能な地域医療共同体を北東北に構築することを目的としています。

本事業の3年目にあたる令和6年度は、前年度の成果を基盤とし、より実践的な取組を推進してまいりました。弘前大学では、地域災害対応教育、多職種連携教育、デジタル教育が実践され、秋田大学では、デジタル教育の充実と、学外施設との連携に着手しています。また、遠隔画像カンファレンスのシステムが構築・導入されたことにより、青森県・秋田県を中心とした学外臨床実習施設等と連携が強化されるなど、北東北地域でのニーズの高い総合診療・感染症・救急・集中治療に長けた地域医療のリーダーを育成しております。

引き続き、ご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



事業責任者
弘前大学理事（教育担当）
岡崎 雅明

弘前大学大学院医学研究科長 医学研究科附属地域基盤型医療人材育成センター長 挨拶

令和4年度に、弘前大学は、文部科学省公募の大学教育再生戦略推進費「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」における全国11拠点の一つに選定され、研究科附属地域基盤型医療人材育成センターを設置しました。

本センターは、将来、地域医療に従事しようとする意思をもつ学生を選抜する枠を活用し、地域にとって必要な医療を提供できる医師の養成に係る教育プログラムの開発・実施を行う教育拠点となることを目的としています。

事業3年目となる令和6年度は、弘前大学災害対応マネージャー（防災士）育成コース、多職種連携演習・実習コース及び多職種連携事例検討ワークショップを開催するなど、本学医学部は本センターを介して、秋田大学医学部、弘前学院大学及び弘前医療福祉大学と密接な連携の下、多職種連携教育を基盤とした総合的に患者・地域住民を診る資質・能力を持つ医療者教育を実施しております。

令和6年度の事業成果をまとめましたので、ここに報告させて頂きました。
よろしくお願い申し上げます。



弘前大学大学院医学研究科長
医学研究科附属地域基盤型
医療人材育成センター長

石橋 恭之

秋田大学大学院医学系研究科長 挨拶

「多職種連携とDX技術で融合した北東北が創出する地域医療教育コモンズ」令和6年度事業完了にあたり、ご挨拶申し上げます。

世界でもトップレベルの高齢化と人口減少の先進地域である北東北の青森県、秋田県にとって、地域住民や患者に良質な医療サービスを提供する医療人の教育・育成は最重要課題であり、その課題達成にはデジタル化、遠隔化が大きなポイントと考えております。

弘前大学が代表となり牽引、リーダーシップを発揮されている本事業において、本学では、すべての卒業生に医療連携・多職種連携を含めた総合的診療能力に長けていただくために、学内の基礎・社会・臨床医学全講座と秋田県内医療機関の指導医・指導者が協力し、統一化された医学・医療教育を推進・遂行できるよう、デジタル教育コンテンツと提供システム構築に主眼をおいてきました。この医学・医療教育のデジタル化と本事業の遂行・推進のために、令和4年12月1日、秋田大学大学院医学系研究科に「先進デジタル医学・医療教育学講座」、ならびに「デジタル医学・医療教育推進センター」を開設し、順次人員を配置してきました。

上記体制構築と共に、1) 基本的診療技能に関する各分野デジタル教材の作成を開始、2) 臨床実習にご協力をいただいている県内医療機関の指導者と教育内容を共有するe-ラーニングネットワーク体制の構築、3) 病院内の全学生・職員向けネットワーク環境整備、4) オンラインシミュレーションセミナーの共有計画、等を進めてまいりました。令和6年度には、当初の実施計画を上回る動画教材の作成数を達成し、弘前大学・秋田大学合同のFDも実現され、両大学の教員・学生間での交流が進展するなど、着実な成果を挙げることができました。今後、弘前大学、秋田大学ならびに青森県内の参画2大学の特徴を生かした各種デジタル教育コンテンツの開発・共有や、学内～県内ネットワークを生かした効果的な医学教育が可能となり、本事業の目標を達成することが期待されます。このような機会をいただきましたこと、感謝申し上げます。本事業の推進・発展のために、秋田大学医学部職員一同、秋田県内の関係各位のご協力を仰ぎながら鋭意、力を尽くしたいと考えております。



秋田大学大学院医学系研究科長

羽渕 友則

1. 事業概要

Outline

【1】ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業とは

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、地域における医療体制の見直しや医師の地域偏在及び診療科偏在を解消する重要性が再認識されるとともに、高度医療の浸透や地域構造の変化（総合診療医の需要の高まり、難治性疾病の初期診断・緩和ケアの重要性等）を踏まえた新時代に適応可能な医療人材の養成といった課題が浮き彫りとなったところ、これらの課題解消に資するためにも、地域にとって必要な医療を提供することができる医師を養成するための学生への学部段階からの動機づけ・資質能力の育成を図る実習・講義等の教育プログラムの更なる充実が求められている。

本事業は、大学医学部における養成課程の段階から医師の地域偏在及び診療科偏在や高度医療の浸透、地域構造の変化等の課題に対応するため、将来、地域医療に従事しようとする意思をもつ学生を選抜する枠を活用し、地域にとって必要な医療を提供することができる医師の養成に係る教育プログラムの開発・実施を行う教育拠点を構築することを目的としている。

【2】「多職種連携とDX技術で融合した北東北が創出する地域医療教育コモンズ」事業

1. 事業概要

弘前大学は、文部科学省が公募した大学教育再生戦略推進費「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」の全国11拠点のうち一つに選定された。

同事業は、大学医学部における養成課程の段階から医師の地域偏在及び診療科偏在や高度医療の浸透、地域構造の変化等の課題に対応するため、将来、地域医療に従事しようとする意思をもつ学生を選抜する枠を活用し、地域にとって必要な医療を提供することができる医師の養成に係る教育プログラムの開発・実施を行う教育拠点を構築することを目的としている。

選定された本学の事業は「多職種連携とDX技術で融合した北東北が創出する地域医療教育コモンズ」と題し、本学医学部、秋田大学医学部、弘前学院大学及び弘前医療福祉大学が連携し、多職種連携教育を基盤とした総合的に患者・地域住民を診る資質・能力を持つ医療者教育により持続可能な地域医療共同体を北東北に構築することを目的としている。

参画4校の教育資源を医学教育クラウドプラットフォームで共有し、医学教育専門家が多職種連携の要素を組み込み、青森県と秋田県内で運用できるように精錬し、このプロセスを通じて北東北で共有可能なオンデマンド教材や教育プログラムなどの教育資源（地域医療教育コモンズ）を創出して、北東北地域でのニーズの高い総合診療・感染症・救急・集中治療に長けた地域医療のリーダーを育成する予定である。

2. 教育プログラム

本事業で構築した「多職種連携」、「遠隔教育・データサイエンス」、「救急・被ばく医療教育」、「総合診療・感染症教育」を核とする教育プログラムを受講した学生が、地域ニーズの高い医療へキャリア展開をすることで、将来深刻化する過疎化により増加するへき地医療に従事する総合診療医養成、新興感染症パンデミックや複合災害に迅速に対応可能な救急・災害医療体制の確立、パンデミック・災害の双方に対応可能な遠隔診療体制の整備を図り、北東北、ひいては高齢化と人口減少が想定されている日本国内の他の地域や諸外国に対しても、本事業での成果を普及させることで、社会に貢献していく。

3. 事業目標

- ・地域医療教育プログラム・デジタルコンテンツ量産
- ・地域枠学生の定着率5%増もしくは100%達成
- ・全ての医学生が卒業までに防災士資格取得
- ・総合診療領域の医師数が地域枠入学者数の約2割に到達
- ・救急および感染制御を専門とする医師数を約3倍に増加

ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業 (弘前大学・秋田大学・弘前学院大学・弘前医療福祉大学) 多職種連携とDX技術で融合した北東北が創出する地域医療教育コモンズ

課題・背景

- 2045年までに北東北は高齢化と人口減少が進行し、過疎化が深刻化
- 臓器別専門医学では解決できない問題を持つ患者・住民が増加

解決策

- 総合的な視点（住民のライフサイクル・地域・多職種連携）を涵養する医学教育
- 急性期・慢性期患者の複合的問題・パンデミックに対応できる総診・救急・感染症医養成
- 北東北2国立大医学部の医学教育グッドプラクティスを融合する教材クラウドプラットフォーム創設

事業内容

- 地域医療教育コモンズ創出
 - ◆ 総合診療（地域医療）・救急・感染症教育等の教育マテリアルを教材クラウドプラットフォームに投入
 - ◆ 専従医学教育専門家がユニバーサルな形態に加工
 - ◆ 創出された地域医療教育コモンズを文脈毎に活用
- アウトプット・アウトカム**
1. 地域医療教育プログラム・デジタルコンテンツ量産
 2. 地域枠学生の定着率5%増もしくは100%達成
 3. 全ての医学生が卒業までに防災士資格取得
 4. 総合診療領域の医師数が地域枠入学者数の約2割に到達
 5. 救急および感染制御を専門とする医師数を約3倍



多職種連携とDX技術で融合した北東北が創出する地域医療教育コモンズ 弘前大学医学部医学科カリキュラムマップ



2. 実 施 体 制

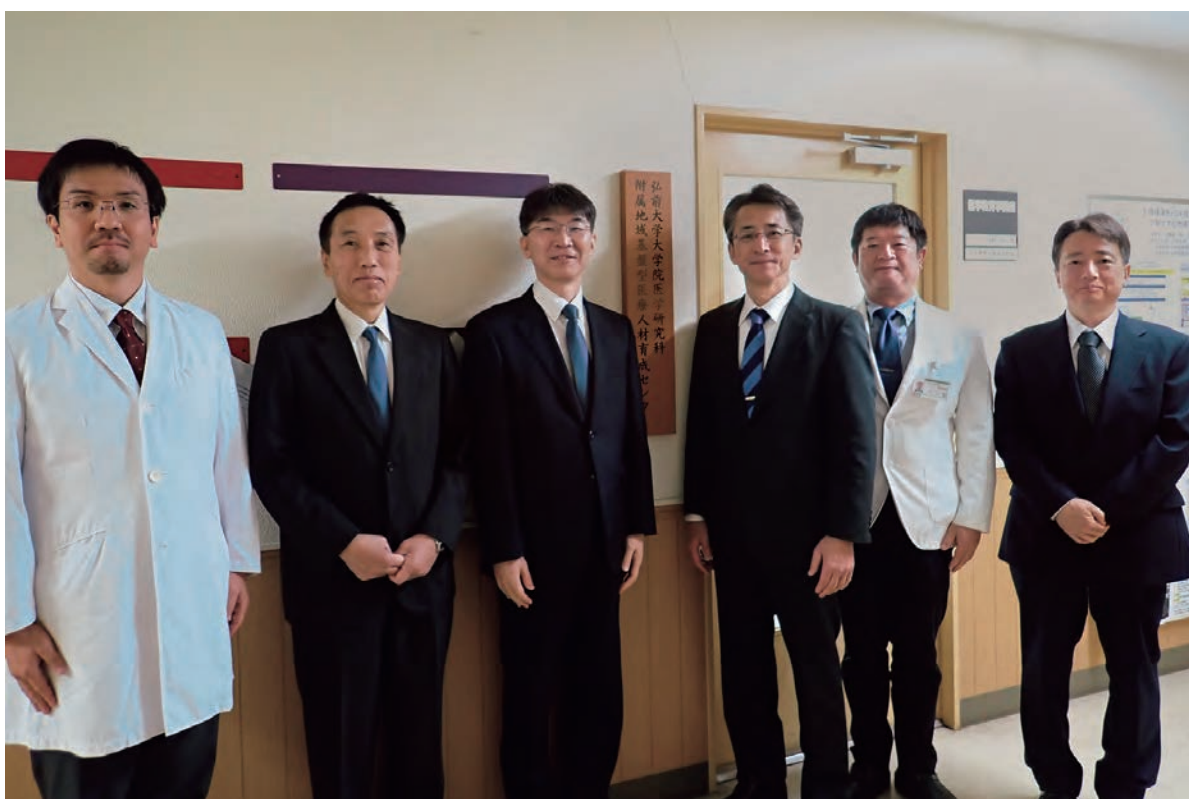
Organization

【1】弘前大学大学院医学研究科附属地域基盤型医療人材育成センター

1. 地域基盤型医療人材育成センターの設置

この事業を実施する体制として、令和4年10月1日付けで医学研究科に「地域基盤型医療人材育成センター」を設置した。

同センターは、医師の地域偏在及び診療科偏在、地域構造の変化などの課題に対応するため、連携校及び協力校並びに協力機関と連携し、地域にとって必要な医療を提供することができる医療人材の育成に係る教育プログラムの開発・実施を行う教育拠点を構築することを目的としている。



地域基盤型医療人材育成センター（令和7年5月現在）

2. 地域基盤型医療人材育成センター運営会議

センターの管理運営を円滑に行うため、センターに運営会議を設置した。

3. 教育カリキュラム専門部会

教育カリキュラムの開発、編成及び広報等に関する事項を検討するため、運営会議に教育カリキュラム専門部会を設置した。

4. 事業評価専門部会

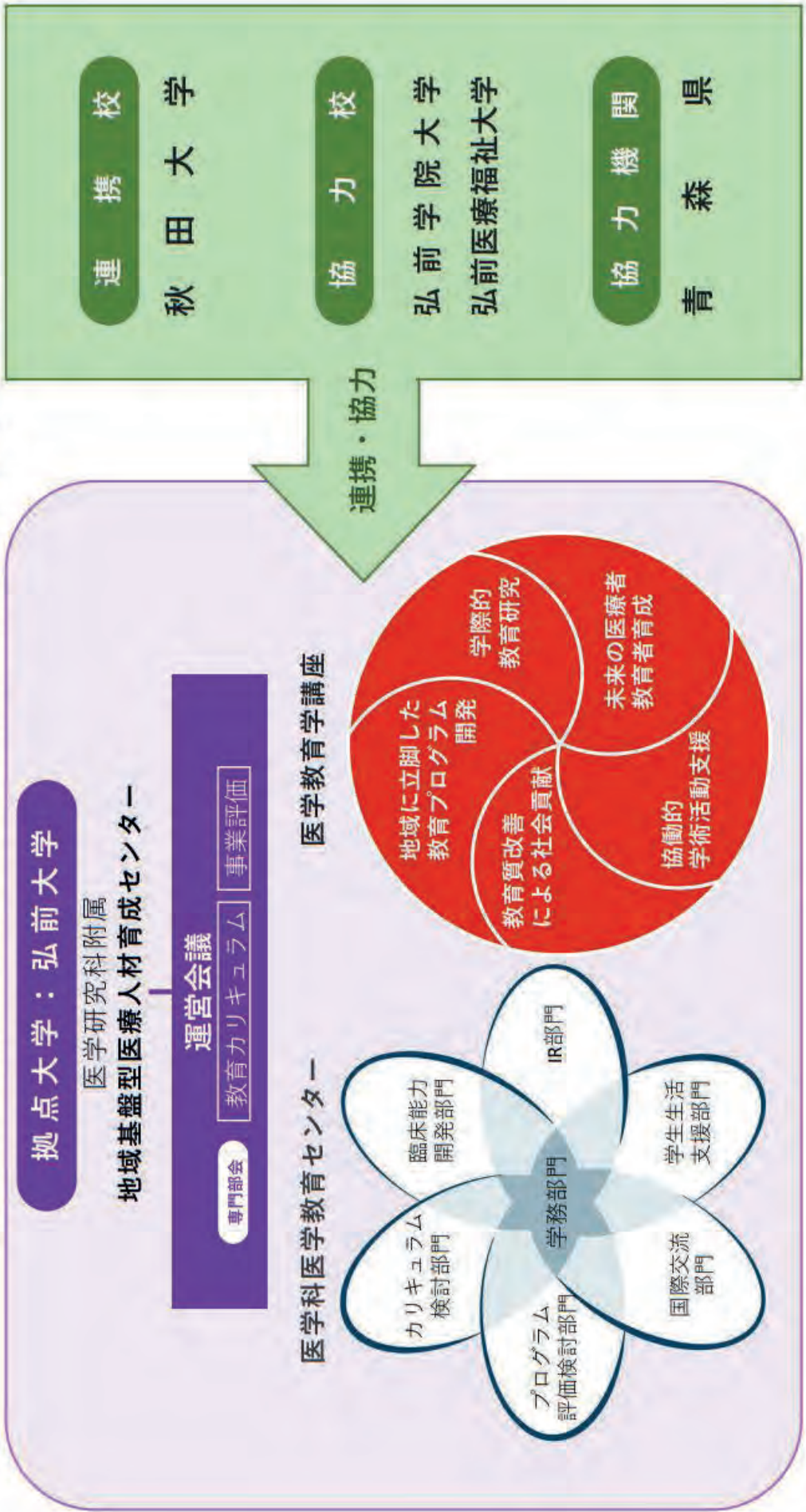
事業評価に関する事項を検討するため、運営会議に事業評価専門部会を設置した。

5. ワーキンググループ（WG）

新規の教育プログラムの開発・検討等を行うため、各WGを設置した。

- ・多職種連携WG
- ・遠隔診断・データサイエンスWG
- ・救急・被ばく・感染症WG

弘前大学「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」実施体制



3. 実 施 内 容

Contents

【1】会議・専門部会等

1. 地域基盤型医療人材育成センター運営会議の開催

令和6年12月20日（金）に弘前大学大学院医学研究科附属地域基盤型医療人材育成センター運営会議をアートホテル弘前シティで開催した。

同センターの運営会議は、同センターの構成員に加え、事業責任者である本学理事（教育担当）並びに本学医学部、秋田大学医学部、弘前学院大学及び弘前医療福祉大学の代表者等に青森県健康医療福祉部長を加えた12名により構成されている。

今回の会議では、出席者紹介後、同センター副センター長である医学教育学講座鬼島宏特任教授から、本学医学部及び秋田大学医学部の令和5年度取組状況調査及び令和6年度実施状況と今後の計画について説明がなされた。

- 議 事
- 1 令和5年度取組状況調査について
 - 2 令和6年度実施状況と今後の計画について
 - 3 その他



運営会議の議事を進行する石橋センター長



説明をする鬼島副センター長



運営会議の様子

2. 教育カリキュラム専門部会の開催

令和7年2月14日（金）、本学医学研究科内において、教育カリキュラム専門部会を開催した。

- 議 事
- 1 令和6年度教育カリキュラムの実施状況について
 - 2 令和7年度教育カリキュラムの実施計画について
 - 3 その他



専門部会の議事を進行する石橋部会長



説明をする鬼島特任教授（弘前大学）



説明をする及川特任教授（秋田大学）



教育カリキュラム専門部会の様子

3. 多職種連携WG、遠隔診断・データサイエンスWG及び救急・被ばく・感染症WG合同会議の開催

令和6年8月26日（月）、本学医学研究科内において、多職種連携WG、遠隔診断・データサイエンスWG及び救急・被ばく・感染症WGの合同会議を開催した。

- 議 事
- 1 令和5年度事業「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」に関する実績と評価について
 - 2 令和6年度年度計画について
 - 3 多職種連携プログラムについて
 - 4 画像診断遠隔カンファレンスシステムの使用状況等について
 - 5 弘前大学災害対応マネージャー（防災士）育成コースの開講状況等について
 - 6 その他



合同会議の様子

4. 秋田大学との打合せ

本事業の進捗状況等について、秋田大学との打合せを以下のとおりオンラインにより行った。

・日 時 令和6年10月23日（水）10：30～

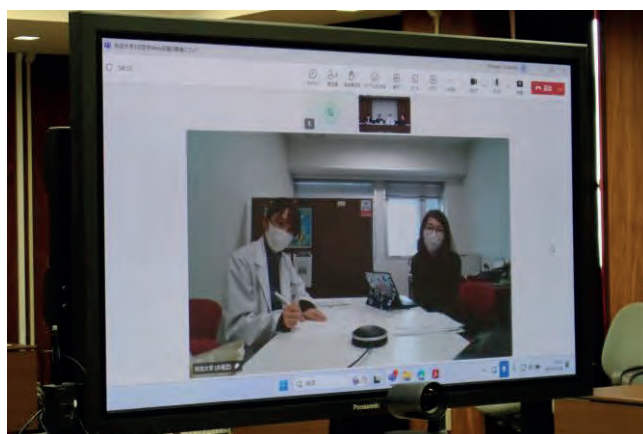
- 議 事
- 1 令和6年度「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」に関する進捗状況について
 - 2 「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」に関する数値目標の達成状況について
 - 3 その他

・日 時 令和7年1月28日（火）10：00～

- 議 事
- 1 令和6年度教育カリキュラムの実施状況について
 - 2 令和6年度事業の実施状況と評価について
 - 3 令和7年度教育カリキュラムの実施計画について
 - 4 その他



【10月23日（水）】



【1月28日（火）】

5. 第3回「多職種連携とDX技術で融合した北東北が創出する地域医療教育コモンズ」事業シンポジウムの開催

令和6年12月20日（金）、令和4年度採択 文部科学省「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」第3回「多職種連携とDX技術で融合した北東北が創出する地域医療教育コモンズ」事業シンポジウムをアートホテル弘前シティにて開催し、教職員、学生、自治体関係者等ら約60名が参加した。

シンポジウムは、本事業責任者である本学岡崎雅明理事からの挨拶の後、第一部では新潟大学大学院医歯学総合研究科地域医療確保・地域医療課題解決支援講座災害医学・医療人育成分野高橋昌特任教授から「攻める医療～社会医学・地域医療学の教育戦略」と題し、特別講演が行われた。

続いて第二部では、「地域医療早期体験実習と多職種連携教育について」をテーマとしたパネルディスカッションが行われた。パネリストを本学医学部医学科3年四戸希さん、1年久寿良優衣さんと同保健学科2年八木澤恵梧さんが、コメンテーターを新潟大学高橋昌特任教授、秋田大学先進デジタル医学・医療教育学講座及川沙耶佳特任教授、コーディネーターを本学医学教育学講座鬼島宏特任教授が務め、各パネリストから発表された後、活発に意見交換が行われた。

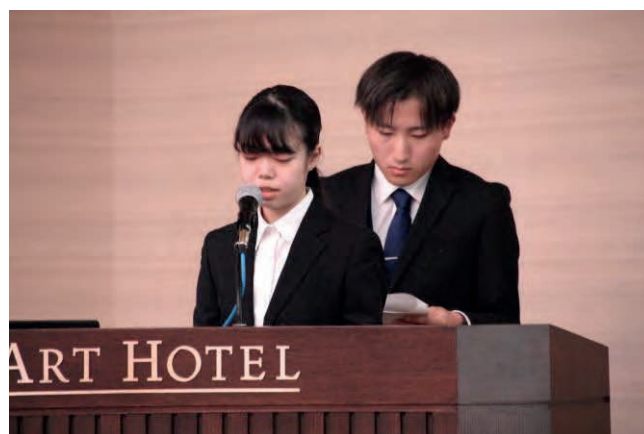
最後に、本学の石橋恭之研究科長から、今後も参画4校及び他大学とも協働しながら医学教育を進めていく旨の挨拶により閉会となった。



岡崎理事（教育担当）



新潟大学 高橋特任教授



学生による発表の様子



パネルディスカッションの様子



秋田大学 及川特任教授



医学教育学講座 鬼島特任教授（副センター長）



石橋研究科長（センター長）



シンポジウムの様子



令和4年度採択 文部科学省「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」

第3回「多職種連携とDX技術で融合した北東北が創出する 地域医療教育コモンズ」事業シンポジウム

日 時：令和6年12月20日（金）15:00～17:00

場 所：アートホテル弘前シティ3階 サファイア

【プログラム】

15:00～15:05 開会挨拶

弘前大学理事（教育担当）

事業責任者

岡崎 雅明

15:05～15:55 特別講演

演題：「攻める医療～社会医学・地域医療学の教育戦略」

講師：新潟大学大学院医歯学総合研究科地域医療確保・地域医療課題解決支援講座

災害医学・医療人育成分野 特任教授

高橋 昌氏

15:55～16:05 休 憩

16:05～16:55 パネルディスカッション

テーマ：「地域医療早期体験実習と多職種連携教育について」

コーディネーター：弘前大学大学院医学研究科医学教育学講座 特任教授

鬼島 宏

パネリスト：弘前大学医学部医学科3年

四戸 希

弘前大学医学部保健学科2年

八木澤 恵 梧

弘前大学医学部医学科1年

久寿良 優 衣

コメンテーター：新潟大学大学院医歯学総合研究科医療確保・地域医療課題解決支援講座

災害医学・医療人育成分野 特任教授

高橋 昌氏

秋田大学大学院医学系研究科医学専攻 先進デジタル医学・

医療教育学講座 特任教授

及川 沙耶佳

16:55～17:00 閉会挨拶

弘前大学大学院医学研究科長

石橋 恭之

6. 第3回全国フォーラムへの参加

令和7年1月10日（金）、一橋講堂において全国フォーラムが開催され、本学からは医学研究科長、専任教員、事務職員、秋田大学からは専任教員、事務職員が参加した。

全国フォーラムでは、学生を対象とした全国アンケートの結果公表及びプログラム受講学生の声が紹介された。その後、各拠点事業のポスター発表に対する質疑応答などの情報共有が行われた。

プログラム

13：00～13：15 開会挨拶

池松和哉（長崎大学医学部長）

尾池雄一（熊本大学医学部長）

来賓挨拶

俵 幸嗣（文部科学省高等教育局医学教育課長）

13：15～13：30 全国アンケート結果公表

13：30～14：30 プログラム受講学生の声

14：30～14：45 休憩

14：45～15：30 ポスターの質疑応答、各大学への質問

15：30～15：45 講評

北村 聖（東京大学名誉教授、地域医療振興協会顧問）

15：45～15：50 次回フォーラム開催案内（名古屋大学）

15：50～16：00 閉会挨拶

大脇哲洋（鹿児島大学医学部長）



質疑応答の様子



説明をする鬼島特任教授

文部科学省補助事業

ポストコロナ時代の
**医療人材養成
拠点形成事業**

第3回

全国フォーラム 学生と共に築く
未来の医療

2025年
1/10 金
13:00～16:00

会場
一橋講堂
〒107-8439
東京都千代田区一ツ橋2-1-2
学術総合センター 2F

ポスター発表
11:00～13:00 全国プロジェクトのポスター閲覧(会場前ロビー)

13:00～13:15 開会挨拶
池田和哉(長崎大学医学部長)
尾崎雄一(熊本大学医学部長)

13:15～13:30 全国アンケート結果公表

13:30～14:30 プログラム受講学生の声

14:30～14:45 休憩

14:45～15:30 ポスターの質疑応答、各大学への質問

15:30～15:45 講評
北村 聖(東京大学名誉教授、地域医療振興協会顧問)

15:45～15:50 次回フォーラム開催案内(名古屋大学)

15:50～16:00 閉会挨拶
大脇敦洋(鹿児島大学医学部長)

主催 長崎大学「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」事務局
mail: bcs@connsnmu2@ml.nagasaki-u.ac.jp





多職種連携とDX技術で融合した北東北 が創出する地域医療教育コモンズ

鬼島 宏¹⁾、浅野研一郎¹⁾、及川沙耶佳²⁾、長谷川仁志²⁾
羽淵友則²⁾、石橋恭之¹⁾

1) 弘前大学・大学院医学研究科
2) 秋田大学・大学院医学系研究科

ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業
(弘前大学・秋田大学・弘前学院大学・弘前医療福祉大学)

多職種連携とDX技術で融合した北東北が創出する地域医療教育コモンズ

課題・背景

- 2045年までに北東北は高齢化と人口減少が進行し、過疎化が深刻化
- 医療従事者不足が深刻化している問題を持つ患者・住民が増加

解決策

- 総合的な視点(住民のライフサイクル・地域・多職種連携)を涵養する医学教育
- 急性期・慢性期患者の複合的問題・ハンデリングに対応できる総合・救急・感染症医療
- 北東北2国立大医学部の医学教育プラットフォームを融合する教材クラウドプラットフォーム創設

事業内容

- 地域医療教育コモンズ創出
 - ◆総合診療(地域医療)・救急・感染症教育等の教育プラットフォームを教材クラウドプラットフォームに投入
 - ◆産後医学教育専門家がユニバーサルな形態に加工
 - ◆創出された地域医療教育コモンズを文脈毎に活用

アウトカム・アウトカム

1. 地域医療教育プログラム・デジタルコンテンツ創出
2. 地域学生学生の定着率5%増もしくは100%達成
3. 全ての医学生が卒業までに防災士資格取得
4. 総合診療領域の医師数が地域投入人数の約2割に到達
5. 救急および感染症専門とする医師数を約3倍

弘前大学教育プログラム

1. 学都ひろさき多職種連携WS

大学コンソーシアム学都ひろさき多職種連携WS

2. 防災医療人材育成コース

多職種連携型防災医療人材育成コース

3. 遠隔医療コミュニケーション

DXへの対応力を身につける遠隔医療コミュニケーション

4. 地域基盤型医学教育

へき地とキャンパスの二拠点生活で学ぶ地域基盤型医学教育

弘前大学教育プログラム 1. 学都ひろさき多職種連携WS

a. 医療安全WS(医学科・保健学科看護学専攻)
b. 医療系多職種連携合同演習(医学科・保健学科・弘前学院大学・弘前医療福祉大学)
c. 早期体験実習(Early Exposure)・基礎看護学実習1(医学科1年次、看護学専攻2年次・必修)

2023年9月17日付
陸奥新聞掲載

早期体験実習・
基礎看護学実習1

医学科112名・保健学科80名(192名)
4グループ 4.5日(45時間)実習
○オリエンテーション(1日)
○講義(1日)
○病棟実習(3日)
○まとめカンファレンス(0.5日)

弘前大学教育プログラム 2. 防災医療人材育成コース

◆教養教育に防災関連3科目設置(医学科全員履修)

科目① 災害原理と防災
科目② 災害医療・情報
科目③ 被災く医療基礎

科目①②③を修了
防災士資格取得
を導かれる

科目①②③を修了
学内称号「弘前大学災害対応マナージャー」

防災教育707070

弘前大学教育プログラム 3. 遠隔コミュニケーション

遠隔画像カンファレンス・双方向性の実施体制構築

- ・弘前大学と青森県、秋田県及び北海道内の臨床実習施設等とを連結した遠隔画像カンファレンスシステムを構築・導入
- ・カンファレンス症例は前向きに蓄積し、教育効果の高いカンファレンスの運用

弘前大学学部附属施設内設置

秋田大学【総合的な診療能力育成/6年間一貫デジタル教育ハイブリッドプログラム】

弘前大連携事業：多職種連携とDX技術で融合した北東北が創出する地域医療教育コモンズ

デジタル医学・医療教育推進センター
(37領域・病種)：「医療連携」・「事例」へのデジタルコンテンツ活用

秋田大学
デジタル医学・医療教育推進センター

秋田大学
動画デジタルコンテンツの作成と共有

令和5年度は動画コンテンツを計54本作成

秋田大学 デジタルを活用した医学部教育の充実(一部)

動画を用いた外実教育や予教育

コミュニケーションアプリの活用

通知地をつないで行うテレメンタリゼーション

プログラミングを用いた重要効能

デジタルスライドを用いた
病理学・細胞学実習

VRを用いた臨床実習支援

秋田大学 デジタル教材の県内共有

県内共有のデジタル教材

県内共有のデジタル教材

県内共有のデジタル教材

弘前大学教育プログラム 4. 地域基盤型医学教育

5年次外実習病院(12施設)

6年次外実習施設(20施設)＋
へき地医療実習施設(13施設)

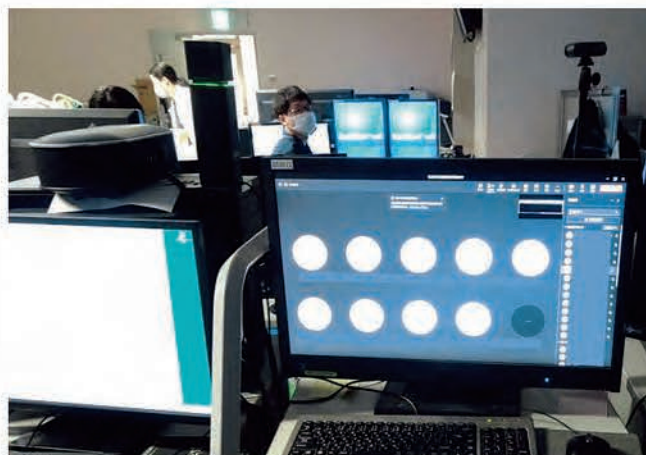
青森県内
・青森県立中央病院
・青森市立中央病院
・弘前総合医療センター
・八戸市立市民病院
・むつ総合病院
・つがる総合病院
・健康病院(弘前)
・東北市立総合病院
・青森労務病院(八戸)
・三沢市立三沢病院

秋田県
・大館市立総合病院
・北秋田
・市立総合病院
(水色：小児科・産婦人科)

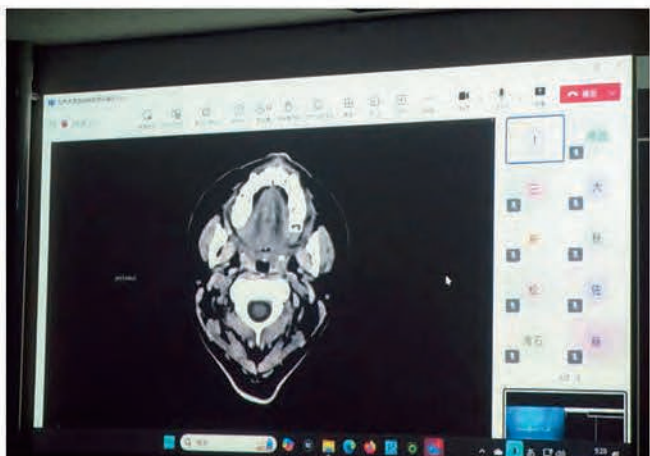
6年次・必修
へき地医療実習4週間

2. 弘前大学遠隔画像診断コース（臨床実習）開始

令和6年4月から双方向性が担保されている放射線診断・遠隔画像カンファレンスシステムを用いて、弘前大学医学部医学科の臨床実習Ⅰ（5年生全員）・臨床実習Ⅱ（6年生選択）における診療参加型臨床実習を開始した。



遠隔画像カンファレンスシステム



遠隔画像診断コース（臨床実習）の様子

3. 医療安全多職種連携コース開講

令和6年4月～7月に弘前大学医学部医学科4年生147名を対象とした医療安全学コースを開講した。6月28日（金）には、「医療の成果と患者の安全を高めるためにチームで取り組む戦略と方法」をテーマに、保健学科看護学専攻11名が加わり計158名の参加による医療安全多職種連携ワークショップを開講した。



医療安全多職種連携ワークショップの様子

4. 医療系多職種連携実習（医学・看護学）コース開講

令和6年8月～9月に、弘前大学医学部医学科1年生と保健学科2年生が同時に早期体験実習と基礎看護学実習を弘前大学医学部附属病院で履修するプログラムを開講し、医学科1年生112名・保健学科看護学専攻2年生80名が履修した。



医療系多職種連携実習（医学・看護学）学内カンファレンスの様子

5. 大学コンソーシアム学都ひろさき医療福祉系多職種連携ワークショップ開講

令和6年9月14日（土）、多職種連携事例検討ワークショップ（医療系多職種連携合同演習）を開講し、弘前大学医学部医学科12名、医学部保健学科19名、医学部心理支援科学科3名、弘前学院大学4名、弘前医療福祉大学11名の計49名の学生が参加した。それぞれの専門職の視点で意見交換を行い、多職種における連携や協働の重要性を体験的に学んだ。ワークショップのプログラムや成果について、次ページ以降に掲載した。

また、令和6年12月7日（土）、弘前学院大学において、多職種連携ワークショップ（医療福祉系多職種連携合同演習）を開講し、弘前大学医学部医学科8名、弘前学院大学看護学部11名、弘前学院大学社会福祉学部1名の学生が参加した。本ワークショップでは、健康増進とアドバンス・ケア・プランニング（人生会議）をテーマにして、有意義な議論・情報交換が行われた。



9月14日（土）多職種連携事例検討ワークショップ（医療系多職種連携合同演習）の様子



12月7日（土）多職種連携ワークショップ（医療福祉系多職種連携合同演習）の様子

弘前大学医学部合同演習 医療系多職種連携に関する授業

(保健学科:保健学概論演習)

令和6年9月14日(土)

医学科 後藤 慎太郎・鬼島 宏
保健学科 藤田 俊文・藤田 あけみ
北宮 千秋・工藤 幸清
中野 学・田中 真
朴 白順・富澤登志子

【授業の目的】

これまで学習してきた医学・保健の専門領域の知識や技術を活用し、今日の保健医療の課題について相補的に学ぶプロセスを通して、専門職種間の連携について理解する。

スケジュール	オリエンテーション	課題	発表
 本日のスケジュール			
12:30 集合 12:30 開始 12:30~13:00 オリエンテーション 13:00~15:00 グループワーク 15:00~15:20 写真に取り込み 15:20~16:40 発表・質疑応答 16:40~17:00 教員のコメント			
※グループワーク中に適宜、休憩をとってください			

スケジュール	オリエンテーション	課題	発表
 オリエンテーション			
1. チームビルディング(他己紹介) 2人1組、3人1組になり、他の人に紹介するためお互いにインタビューをして情報収集してください(3分) - 好きな食べ物、好きな季節、今、興味のあること、やってみたいこと、この授業への意気込み etc. - 他のメンバーに1人2分位で紹介してください(15分)			

スケジュール	オリエンテーション	課題	発表
 オリエンテーション			
2. 事例の課題についてグループワーク - 模造紙に事例の「生活の課題と対策」を表現する - ワークのすすめかたは各グループに一任			
3. 発表 15:20~ - 発表前の休憩時間に模造紙の成果を写真に取り込み、プロジェクターに映して発表 - 発表時間 5分 質疑応答 5分			
4. 教員からコメント			

スケジュール	オリエンテーション	課題	発表
 グループワーク課題			
【事例】 弘前市在住、弘前桜子(女性、65歳)、2022年春頃より喋りにくさも感じていた。喋りにくさについては、歯科治療を実施し、総入れ歯にした時期と重なっていたため、入れ歯が合わないと思い、そのまま過ごしていた。その後、2022年の年末に左足に違和感を覚え、少し足の動きが悪くなっていることや歩行時にふらつく感じがあることに気づいた。かかりつけ医を受診し相談したところ、2017年に脳梗塞の既往があったため、脳卒中専門病院を紹介され精密検査を受けたが、あらたな病巣は認められなかった。その後2024年4月頃、徐々に喋りにくさや手足の動きが悪くなっていることから、再度かかりつけ医に相談し大学病院神経内科を紹介・受診した。			
精密検査の結果、画像診断(MRI)では特異的な異常はみられず、また血液検査においても甲状腺機能異常やビタミン欠乏、感染症など、症状に合致するような異常値は見られなかった。筋電図検査では異常な放電パターンが観察され、一方で神経伝達速度検査では大きな低下は観察されなかった。感覚神経についても特に異常がみられなかった。			
以上より、「〇〇」と診断された。			

スケジュール	オリエンテーション	課題	発表
 グループワーク課題			
【事例】 つづき 弘前さんは、2017年の脳梗塞発症後は高血圧症と脂質異常症、Ⅱ型糖尿病のため通院し、内服薬を服用していた。同居家族は67歳の夫：太郎、息子夫婦(息子38歳、息子妻35歳)と孫(6歳、2歳)となっている。2017年までは会社員だったが、脳梗塞発症後は専業主婦となった。			
弘前さんは、2017年の脳梗塞の影響で発症当初は左上半身に若干の運動麻痺(感覚障害なし)があったが、3ヶ月間の入院・リハビリテーションによりほとんど麻痺の影響はみられず、屋外も杖なしで自立していた。また介護予防のために介護保険によるサービスの利用や地域活動へも積極的に参加していた。旅行が好きで家族全員での旅行を希望している。			
今回、検査の結果、「〇〇」の診断となったが、弘前さんが可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、今後の「生活の課題と対策」について、「自分の専門性の視点」を含めて話し合ってください。加えて、保健・医療・介護・福祉にかかわるさまざまな職種とどのような連携が必要かという視点も考慮してください。			

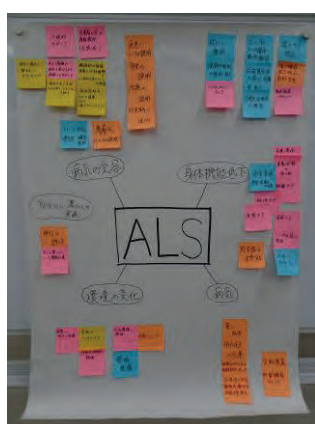
各グループの発表資料（グループワークの成果）



Aグループ



Bグループ



Cグループ



Dグループ



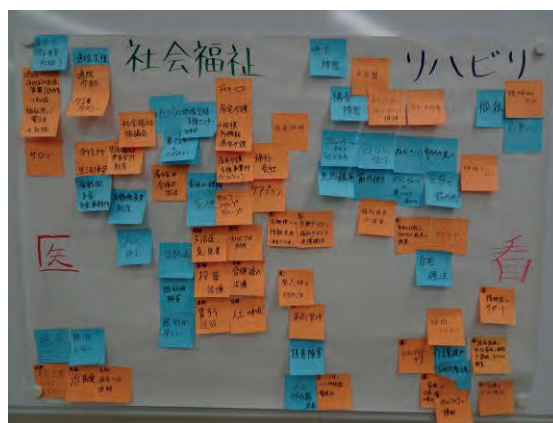
Eグループ



Fグループ



Gグループ



Hグループ

2024年12月7日(土)
弘前学院大学・弘前大学
多職種連携ワークショップ

弘前大学・医学部
弘前学院大学・看護学部
弘前学院大学・社会福祉学部

鬼島 宏
大瀬富士子
小川幸裕

HIROSAKI UNIVERSITY
弘前学院大学
HIROSAKI GAKUIN UNIVERSITY

2024年12月7日(土)

多職種連携ワークショップ

1. はじめに 17:40~17:50
2. グループ・ワーク 17:50~18:25
3. アドバンス・ケア・プランニング (人生会議) 18:25~19:00
4. まとめ 19:00~19:10

弘前城(桜)・ねぶた(弘前大出陣)

厚生労働省(健康増進法)第三次健康日本21(令和6年~)

健康日本21(第三次)の概念図

全ての国民が健やかで心豊かに生活できる持続可能な社会の実現のために、以下に示す方向性で健康づくりを進める

健康寿命の延伸・健康格差の縮小

生活習慣の改善(リスクファクターの低減) → 生活習慣病(NCDs)の発症予防 → 生活習慣病(NCDs)の重症化予防 → 生活機能の維持・向上

個人の行動と健康状態の改善 → 社会環境の質の向上

自然に健康になれる環境づくり → 社会とのつながり・こころの健康の維持と向上 → 誰もがアクセスできる健康増進のための基盤の整備

ライフコースアプローチを踏まえた健康づくり

第三次青森県健康増進計画

「皆さんの立場」で何ができるか？

- 健康寿命の延伸・健康格差の縮小
- 個人の行動と健康状態の改善
- 社会環境の質の向上

図1 平均寿命の推移

1975 1980 1985 1990 1995 2000 2005 2010 2015 2020

80 75 70 65 60

86.33 79.27

出典 厚生労働省健康局

第三次青森県健康増進計画

「皆さんの立場」で何ができるか？

- 健康寿命の延伸・健康格差の縮小
- 個人の行動と健康状態の改善
- 社会環境の質の向上

図2 都道府県別平均寿命の分布

表1 健康寿命(令和元(2019)年)

	青森県	全国
男性(平均寿命との差)	71.73 (7.54)	72.68 (8.81)
女性(平均寿命との差)	76.05 (10.28)	75.38 (12.22)

出典 厚生労働科学研究「健康寿命及び地域格差の要因分析と健康増進対策の効果検証に関する研究」

第三次青森県健康増進計画

「皆さんの立場」で何ができるか？

- 健康寿命の延伸・健康格差の縮小
- 個人の行動と健康状態の改善
- 社会環境の質の向上

図3 三大死因死亡率(人口10万対)の推移(全国・青森県)

人口総数別

1995 1996 1997 1998 1999 2000 2001 2002 2003 2004 2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011 2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019 2020 2021 2022

500 400 300 200 100 0

出典 人口動態統計

Aging & Health

「皆さんの立場」で何ができるか？

- 健康寿命の延伸・健康格差の縮小
- 個人の行動と健康状態の改善
- 社会環境の質の向上

青森・長野・沖縄の年代別死亡率ランキング(人口10万人当たり、2015年・男性)

年齢	青森県	長野県	沖縄県
0~4歳	45 (1.0)	9	44
5~9	0 (0.0)	1	7
10~14	3 (0.2)	2	12
15~19	42 (1.8)	44	24
20~24	92 (1.8)	46	51
25~29	59 (0.7)	21	79
30~34	56 (1.2)	14	48
35~39	109 (1.2)	45	92
40~44	153 (1.4)	44	109
45~49	267 (1.2)	46	214
50~54	447 (1.0)	47	276
55~59	691 (1.5)	47	460
60~64	1113 (1.5)	47	731
65~69	1653 (1.6)	47	1053
70~74	2631 (1.4)	47	1906
75~79	4236 (1.5)	47	2994
80~84	7074 (1.3)	47	5623
85歳以上	16357 (1.1)	46	13680

表2: 10代前半までと20代後半を隔てて青森県の男性は長野県と比べていずれも死亡率が高い

「もしものときに、どうしたいか」は、変わっていくことがある。

どよよな生き方を望む人は、一人ひとり異なるもの。また、ライフステージとともに変わっていくこともありえます。

人生会議 アドバンスケアプランニング(ACP)

6. 「医療系学生の Interprofessional Work ワークショップによる実践能力およびコミュニケーションに関する教育効果の検証」の論文投稿

保健科学研究に投稿していた、3大学の医療系学生対象のワークショップに関する論文が受理され、第15巻1号に掲載された。

保健科学研究 15(1): 15-21, 2024

【原著】

医療系学生の Interprofessional Work ワークショップによる 実践能力およびコミュニケーションに関する教育効果の検証

今秀徳^{*1} 成田秀貴^{*2} 藤田俊文^{*2} 藤田あけみ^{*2} 野村理^{*3} 田中真^{*2}
藤岡美幸^{*2} 大庭輝^{*2} 北宮千秋^{*2} 工藤幸清^{*2} 鬼島宏^{*3} 富澤登志子^{*2}

(2024年1月31日受付, 2024年4月1日受理)

要旨: Interprofessional Work (以下, IPW) 能力とコミュニケーション能力への教育効果を検証することを目的とし, 3大学の医療系学生を対象に, ワークショップ形式の演習による Interprofessional Education (以下, IPE) を行った。演習では 5~6 人のグループで多系統萎縮症の患者のケアについて, 専門職として意見交換を行い, ケアの方針をまとめ, 発表と質疑応答を行った。調査方法は演習前後の質問紙調査とし, 調査項目は学年や学部・学科等の基本属性, IPW 能力を CICS29, コミュニケーション能力を KiSS-18 により測定した。有意水準は 5%未満とし, 演習前後の各得点を比較した。回答の得られた 36 名を対象とし, CICS29 総得点は演習前 113.3 ± 13.7 点, 演習後 125.3 ± 12.1 点, KiSS-18 総得点は演習前 62 (四分位範囲:56-70) 点, 演習後 72 (四分位範囲:63-82) 点であり, いずれも有意に向上した。演習で専門職として自身の意見を述べ, 専門外の分野については他職種の意見を求めたことにより, IPW 能力とコミュニケーション能力が向上したと考えられた。

キーワード: インタープロフェッショナルワーク, インタープロフェッショナルエデュケーション, コミュニケーション, 教育, ワークショップ

7. データサイエンス医学コース開講

弘前大学医学部医学科 1 年生が受講する医用システム工学概論を再編成し、医学分野に対応したデータサイエンスを履修する科目を116名が受講した。



授業の様子

8. 地域医療・遠隔医療コミュニケーションワークショップ（低学年）開講

令和6年7月10日（水）、弘前大学医学部医学科2年生を対象とした地域医療入門の授業において、及川沙耶佳氏（秋田大学大学院医学系研究科医学専攻先進デジタル医学・医療教育学講座 特任教授）、坪谷透氏（一般社団法人みんなの健康らぼ 理事）を講師にお招きし、ワークショップを開講した。

この授業は、「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」の地域基盤型医学教育プログラムの一環として、北東北の医療現状に鑑みながら、今後の地域医療を考えるワークショップが展開され、2年生150名が受講した。



秋田大学 及川特任教授



みんなの健康らぼ 坪谷理事



ワークショップの様子

9. 救命・被ばく医療対応コース開講

臨床実習Ⅰ（クリニカルクラークシップⅠ）において、救命・被ばく医療対応コースを開講し、弘前大学医学部医学科5年生113名が受講した。



救命・被ばく医療対応コースの様子

10. 医学教育センター主催FDの開催

医学教育センター主催（地域基盤型医療人材育成センター共催）のFDを、以下のとおり開催した。

- ・日 時 令和6年9月9日（月）18：00～19：00
- ・場 所 基礎第二講義室
- ・講 師 孫 瑜 氏
（筑波大学 医学医療系 地域医療教育学/ヘルスサービスリサーチ分野 助教）
橋本 恵太郎 氏
（筑波大学 医学医療系 地域医療教育学 助教）
- ・内 容 『地域医療の多様なニーズにシームレスに対応できるオールラウンダーの養成』



筑波大学 孫助教



筑波大学 橋本助教

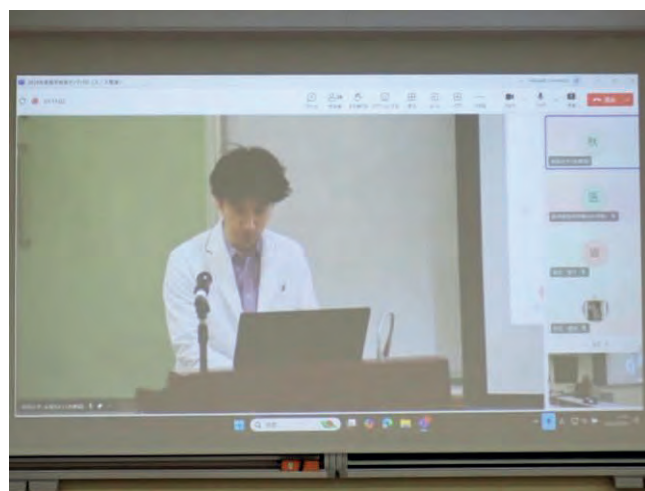


医学教育センター主催FDの様子

- ・日 時 令和7年3月5日（水）17：00～18：00
- ・場 所 基礎第二講義室 ※オンライン（Microsoft Teams）同時開催
- ・テーマ 「教育実践の共有 ～ 臨床実習編 ～」
- ・講 師 弘前大学大学院医学研究科
むつ下北地域医療学講座（循環器腎臓内科学講座） 講師 石田 祐司
『学生のニーズを考慮した臨床実習＋ α を考える』
秋田大学大学院医学系研究科医学専攻
総合診療・検査診断学講座 教授 植木 重治
『デジタルを活用した臨床実習の試み
ー秋田大学総合診療・検査診断学講座ー』



弘前大学 石田講師



秋田大学 植木教授



医学教育センター主催FDの様子

11. 弘前大学医学部連携教育施設におけるFDの開催

医学教育及び診療参加型臨床実習の現状等について相互理解を深めることを目的として、弘前大学医学部連携教育施設におけるFDを、以下のとおり開催した。

- ・日 時 令和7年2月13日（木）、14日（金）16：00～17：00（オンライン）
- ・対象施設 青森県立中央病院、青森市民病院、弘前総合医療センター、つがる総合病院、十和田市立中央病院、八戸市立市民病院、むつ総合病院、大館市立総合病院、健生病院



【2月13日（木）開催】



【2月14日（金）開催】

12. 夏休みの体験実習報告会ワークショップの開催

令和6年10月19日（土）、令和6年度夏休みの体験実習報告会ワークショップが開催された。

本ワークショップは、弘前大学医学部医学生（2、3、4年生）対象の地域医療早期体験実習に参加した学生による体験報告及び情報交換等、初の試みとして実施された。



夏休みの体験実習報告会ワークショップの様子

13. 筑波大学から弘前大学へのサイトビジット

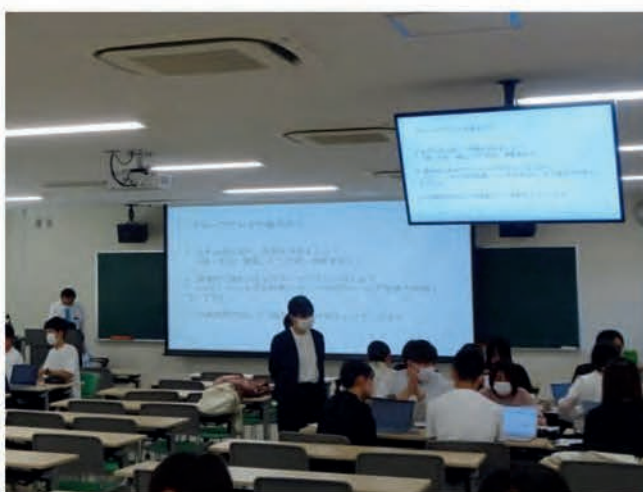
令和6年9月9日（月）に筑波大学から本事業の関係者が来校された。

弘前大学医学部医学科・保健学科合同の多職種連携実習学内カンファレンス見学と本学の事業説明の後、意見交換が行われた。

- ・筑波大学：孫 瑜（医学医療系地域医療教育学/ヘルスサービス研究分野 助教）
- 橋本 恵太郎（医学医療系地域医療教育学 助教）
- 石川 奈保子（筑波大学ポストコロナ事業事務担当）

9月9日（月） スケジュール

時 間	説明内容	対応者（弘前大学）	場所
9:30	集 合（医学研究科・基礎研究棟）	鬼島 宏（医学教育学） 唐牛・柏崎（学務グループ）	大会議室
10:00～12:30	多職種連携実習（医学科・保健学科 合同）学内カンファレンス	鬼島 宏（医学教育学） 藤田あけみ（保健学研究科）	保健学科 33 講義室
12:30～13:10	昼 食		大会議室
13:10～13:30	弘前大学のポストコロナ GP 概要	鬼島 宏（医学教育学）	大会議室
13:30～14:00	医療安全学教育 多職種連携ワークショップ	大徳和之（医療安全学）	大会議室
14:00～14:50	遠隔医療コミュニケーション 遠隔画像診断学	掛田伸吾（放射線診断学）	大会議室
14:50～15:10	休 憩		大会議室
15:10～16:00	健康未来イノベーションセンター／健康・ 医療データサイエンス研究センターの活動 弘前大学 COI 関連の教育研究	伊東 健（分子生体防御学）・ 三上達也（先制医療学）・玉田 嘉紀（医療データ解析学）	大会議室
16:00～16:30	防災士取得に向けたカリキュラム 災害・被ばく医療教育	辻口貴清・伊藤勝博（災害・ 被ばく医療教育センター）	大会議室
16:30～17:40	総括・質疑応答 学内教育施設見学	鬼島 宏（医学教育学） 唐牛・柏崎（学務グループ）	大会議室
17:40～18:00	休 憩		大会議室
18:00～19:00	医学教育センター主催 FD （講師：孫先生・橋本先生）	石橋恭之（研究科長） 富田泰史（学務委員長） 鬼島 宏（医学教育学）	基礎第二 講義室



多職種連携実習学内カンファレンス見学の様子



事業説明の様子



学内教育施設見学の様子

14. 富山大学・新潟大学へのサイトビジット

令和6年11月18日（月）、19日（火）に富山大学、令和7年2月1日（土）に新潟大学へのサイトビジットを実施した。ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業「臨床医学と社会医学を駆使して地域を守る医療人の養成」の拠点校である富山大学では長期滞在型プライマリケア実習（実習病院・かみいち総合病院）の視察、同事業の連携校である新潟大学では新潟医療人育成センター等の視察やシンポジウム参加が行われた。

富山大学へのサイトビジット（報告） 令和6（2024）年11月18日（月）～19日（火）

11月18日（月）午前 LIC オリエンテーションの見学

長期滞在型クリニカルクラークシップ（Longitudinal Integrated Clerkship, LIC）

LIC 12週間

I期 11月18日～2月21日（冬季休業 12月23日～1月3日）

II期 5月5日～7月25日（I期, II期 各10名定員→関連10施設で1人ずつ）

今年度は、前期3名、後期6名と少なめ（昨年度は定員一杯の計20名応募）

携帯用診察器具（血圧計、ハンマー、眼底鏡、耳鏡、パルスオキシメーター等）貸与
シミュレーターを利用した長期プライマリ・ケア実習前のトレーニング

I期の期間中 LIC オンライン振り返り（4週間ごとの金曜日）

学習内容の学生間（異なる施設に配属）の共有

SEA (significant event analysis) による振り返り

学修方略の自己/共調整

第1回目 12月13日、第2回目 1月24日、第3回目 2月21日

医学教育学講座 <https://sites.google.com/view/mededtoyama/home/>

看護研究棟4階・3階の一部スペースに、下記の3つのセンターが同居する感じ

北越地域医療人養成センター

シミュレーションセンター T-ALPS

(Toyama Advanced Learning center for Procedures and Skills)

シミュレーターが常に設置され、いつでも使える状態（稼働率を上げている）

医師キャリアパス創造センター

11月18日（月）午後 学内施設見学等

医学教育学講座

教授 高村昭輝 先生

助教 近藤 諭 先生（LIC オリエンテーション）

特命助教 武島健人 先生（キャンパス案内、多職種連携教育）

大学院生 木戸敏喜 先生（附属病院ベスト指導医賞受賞）

北越地域医療人養成センター

特命助教 松本清明 先生（ポストコロナ事業説明）

特命助教 清水光治 先生（救命救急士）

- ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業「臨床医学と社会医学を駆使して地域を守る医療人の養成」の具体的な活動状況
 - ✓ 北越地域医療人養成センター：新潟大学との連携
サマースクール（フィールドワーク＋グループワーク）3年次地域枠学生が参加
令和6年8月24日（土）10:00～16:00 1日で完結
あさひ総合病院（富山県下新川郡朝日町）：地域医療・多職種連携の体験学修
地域を守る医療人養成プログラム（アドバンスド・コース）として位置付け
 - ✓ 事業連携の可能性：（例）弘前大学・学生（新潟県・富山県出身）の事業参加
 - ✓ アウトカム・アウトプット（現時点での達成状況）
 - ✓ 教育戦略（全学生対象、地域枠学生対象）、出口戦略の取組状況
- 特色ある医学教育（学部教育）
 - ✓ 診療参加型臨床実習（LICを含む）、地域医療実習、CPC
 - ✓ 多職種連携教育・合同教育
医療学入門：医学・看護学・薬学の合同教育（300名弱）→ 14, 15回目には
1年次学生が1週間各施設で研修（45施設・早期介護体験実習）
2年次「和漢医薬学入門」の合同演習
3年次「感染症」「疫学」の合同演習
4年次「多職種部門ローテーション実習」
1週間（毎週2～3名実習））通院治療・医療安全・医療機器管理
多職種・シミュレーション・和漢医薬3週でローテーション
臨床実習：4年次12月～5年次11月 5年次1月～6年次7月
CC EPOC 導入稼働率を上げる努力（臨床実習の評価を確実にする）
教育医長を設置
- 共用試験への対応
 - ✓ Post-CC OSCE（機構課題・独自課題）に対応する組織体制
 - ✓ Pre-CC OSCE（4年次）と OSCE 前教育プログラムに対応する組織体制

11月19日（火）午前 学外施設見学

かみいち総合病院 <https://www.kamiichi-hosp.jp/>

院長 佐藤幸浩先生

内科医員 脇田明宏先生

総務課 幅 彰宏様

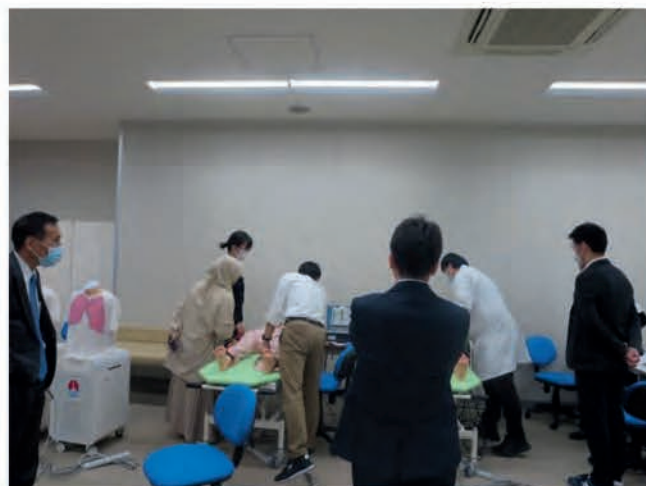
総数 199床：一般148床・精神51床

回復期リハビリテーション病棟、地域包括ケア病棟、家庭医療センター・地域連携室など

富山県・中新川（なかにいかわ）郡 県東部2町1村（44,000人）

上市町（18,000人）、立山町（23,000人）、舟橋村（3,000人）

午前中の実習：地域連携室（地域包括ケアシステム）、内科外来



LIC（長期プライマリ・ケア実習）オリエンテーション及びシミュレーション実習見学の様子



シミュレーションセンター（T-ALPS）



シミュレーションルーム



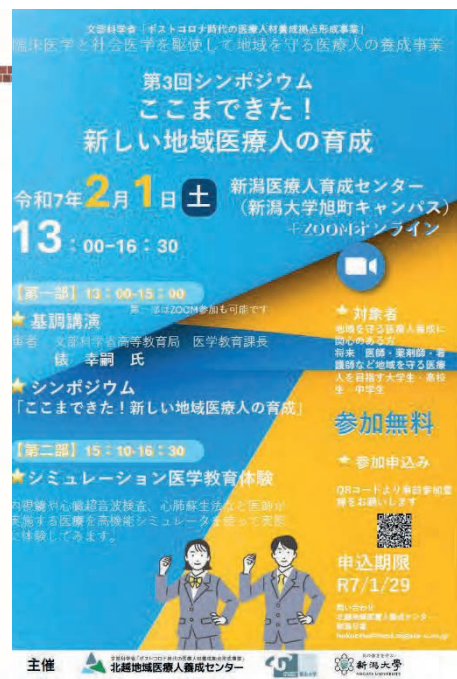
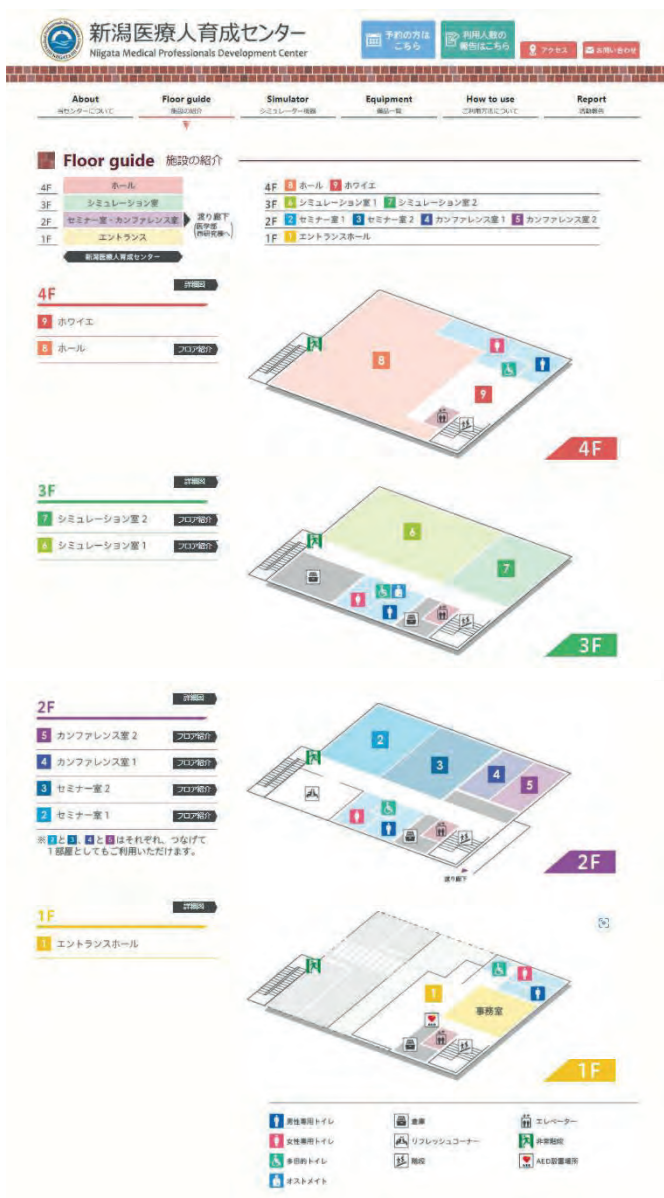
かみいち総合病院

新潟大学へのサイトビジット（報告） 令和7（2025）年2月1日（土）

2月1日（土）

- ・ ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業「臨床医学と社会医学を駆使して地域を守る医療人の養成」の具体的な活動状況
 - ✓ 第3回シンポジウム「ここまで来た！ 新しい地域医療人の育成」参加
 - ✓ 北越地域医療人養成センター 新潟分室の組織・活動状況、富山大学との連携：富山大学・LIC（長期滞在型プライマリケア実習）と新潟大学・社会医学実習コースの合同実習（上越・糸魚川地域）
 - ✓ 事業連携の可能性：（例）弘前大学・学生（新潟県・富山県出身）の事業参加（サマーキャンプ・8月実施 富山新潟県境地域）
- ・ 新潟医療人育成センター（シミュレーション室、カンファレンス・セミナー室等）
 - ✓ 新潟県地域医療再生計画（厚生労働省・平成24年度補正予算）
<https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10800000-Iseikyoku/0000095168.pdf>
 - ✓ 地域医療確保・地域医療課題解決支援講座 災害医学・医療人育成分野
 - ✓ 医療人育成センター 組織・活動状況
<https://www.nuh.niigata-u.ac.jp/nmp/contents/about/>
https://drive.google.com/file/d/157jp1Z3QJPxvvtvsSFaSXHyZolc_5ao/view





シンポジウムの様子



新潟医療人育成センター

15. 高知大学へのサイトビジット

令和7年2月17日（月）～19日（水）に高知大学へのサイトビジットを実施した。ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業「黒潮医療人養成プロジェクト」の拠点校である高知大学で臨床体験実習の視察及び同事業に関する意見交換、幡多けんみん病院では地域医療実習の視察が行われた。

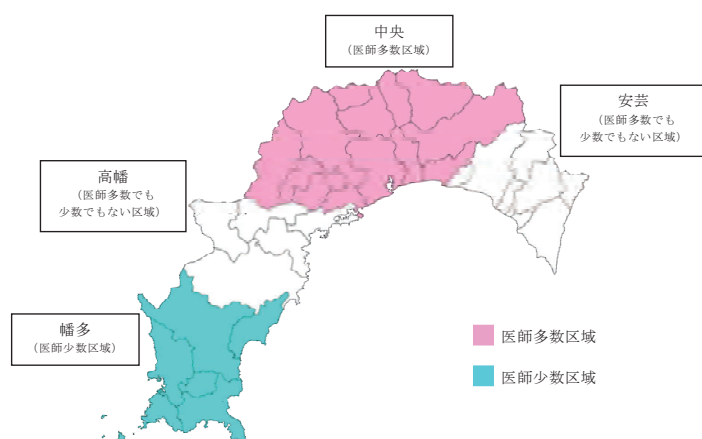
高知大学へのサイトビジット（報告） 令和7（2025）年2月17日（月）～2月19日（水）

2月17日（月）～2月18日（火）午前 高知大学医学部

- 高知大学医学部・附属病院・学内施設見学等
- 臨床体験実習（1年生～3年生 3日 x 3回）
 - ✓ 臨床体験実習Ⅰ（1年生）報告会
 - ✓ 臨床体験実習Ⅲ（3年生）オリエンテーション
 - ✓ 附属病院と地域拠点病院（2病院）から診療科を選択
滞在費等：高知県地域医療再生計画「医学生・研修医の高知県内研修支援事業」
 - ✓ 高知県地域医療再生計画（厚生労働省・平成24年度補正予算）
<https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10800000-Iseikyoku/0000097511.pdf>
- ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業「黒潮医療人養成プロジェクト」の具体的な活動状況
 - ✓ 過疎高齢化先行地域・遠隔地での医療確保対策（人口65万人 可住地面積割合全国最小県16%）
 - ✓ 南海トラフ地震による津波被害への対応（災害医療・救急医療）
 - ✓ 和歌山県立医科大学・三重大学との具体的な連携状況
 - ✓ アウトカム・アウトプット達成状況
 - ✓ 事業連携の可能性：（例）弘前大学・学生（関西圏出身）の事業参加（災害医療体験、災害時対応訓練等）

2月18日（火）午後～2月19日（水）午前 学外施設見学等

- 地域拠点病院（幡多けんみん病院・高知県宿毛市 300床規模）
 - ✓ 臨床体験実習Ⅲ（3年生）
 - ✓ 診療科横断的、多職種連携
消化器内科、循環器内科、外科、脳神経外科、産婦人科、小児科、整形外科、麻酔科



黒潮医療人養成プロジェクト

はじめに ▽ プログラム説明 ▽ e-ラーニング 学生の声 ▽ シンポジウム 関係者ページ お問い合わせ



黒潮医療人養成プロジェクト

弘前大学 高知大学サイトビジット行程表

参加者（敬称略）

弘前大学	鬼島 宏	弘前大学大学院医学研究科医学教育学講座 特任教授
	高田 泰史	弘前大学大学院医学研究科循環器腎臓内科学講座 教授
	浅野 研一郎	弘前大学大学院医学研究科医学教育学講座 准教授
	唐牛 孝明	弘前大学医学研究科学務グループ 専門職員
	柏崎 由加子	弘前大学医学研究科学務グループ
高知大学	花崎 和弘	高知大学医学部附属病院 院長
	井上 啓史	高知大学医学部 学部長
	瀬尾 宏美	高知大学医学部附属病院総合診療部 教授
	藤枝 幹也	高知地域医療支援センター センター長 臨床研究教育・人材育成センター副センター長
	阿波谷 敏英	高知地域医療支援センター 副センター長 家庭医療学講座 教授
	矢野 有佳里	高知地域医療支援センター 特任教授
	堤 真琴	総務企画課地域医療支援室（専任）
	前田 佐也加	学生課 教務係（専任）

日程

2月17日(日)	
	ホテル 発
9:50	高知大学医学部 着
10:00	打合せ（管理棟3階第3会議室）、施設見学【鬼島先生、高田先生、唐牛様、柏崎様】
	昼食 とさのさと
13:10	臨床体験実習Ⅰ報告会 視察
16:00	意見交換会（管理棟3階第3会議室）
17:00	臨床体験実習Ⅲオリエンテーション 視察
17:30	高知大学医学部附属病院 病院長、高知大学医学部長 挨拶

2月18日(火)	
	ホテル 発
8:50	高知大学医学部 着
9:00	臨床体験実習Ⅲ：附属病院内実習観察予定（現在調整中） 【鬼島先生、高田先生、唐牛様、柏崎様】
10:30	高知大学医学部 発 【鬼島先生、唐牛様、柏崎様】 借上げバス
12:30	昼食 ひなたや食堂：道の駅 ビオスおおがた
13:40	幡多けんみん病院 着【鬼島先生、浅野先生、唐牛様、柏崎様】
14:00	研修医講演、臨床体験実習Ⅲ 視察
17:00	幡多けんみん病院 発
17:30	ホテルサンリバー四万十 着
18:30	夕食 いちもん家
2月19日(水)	
	ホテル 発（実習へ行くバスは7:45に出発）【唐牛様、柏崎様は直接中村駅へ】
8:15	幡多けんみん病院 着 【鬼島先生、浅野先生】
8:30	臨床体験実習Ⅲ 視察
10:30	幡多けんみん病院 発
10:49	JR 平田駅 発（中村駅 11:13 発→高知駅 13:05 着、空港連絡バス 13:50 発）
	高知空港 15 階の航空機にて青森へ

※高田先生は初日から 2/18 午前まで、浅野先生は 2/18 午後より参加



施設見学（附属病院新病棟、災害備品庫）の様子



臨床体験実習Ⅰ（１年生）報告会の様子



臨床体験実習Ⅲ（３年生）オリエンテーションの様子



意見交換会の様子



地域拠点病院（幡多けんみん病院）での
臨床体験実習Ⅲの様子

16. 筑波大学へのサイトビジット

令和7年3月10日（月）に筑波大学へのサイトビジットを実施した。ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業「地域医療の多様なニーズにシームレスに対応できるオールラウンダーの養成」事業の拠点校である筑波大学において、感染症、緩和医療、救急医療及び地域医療などについて意見交換が行われた。また、笠間市立病院及び特別養護老人ホーム笠間陽だまり館において、地域医療実習の視察及び同事業に関する意見交換が行われた。

筑波大学へのサイトビジット（報告）

令和7（2025）年3月10日（月）

（1）茨城県の地域医療実習見学（5年生対象）

笠間市立病院

前野哲博先生、孫瑜先生、小野有理先生

設立経緯：笠間市・友部町・岩間町の合併

友部町国保病院→笠間市立病院

診療科：総合診療部のみ

医師8名（内3名は筑波大学兼業）

病床数：急性期 30床

医療人口：約7万人

＊同じ医療圏内に茨城県立中央病院

（病床数一般475床、結核25床）

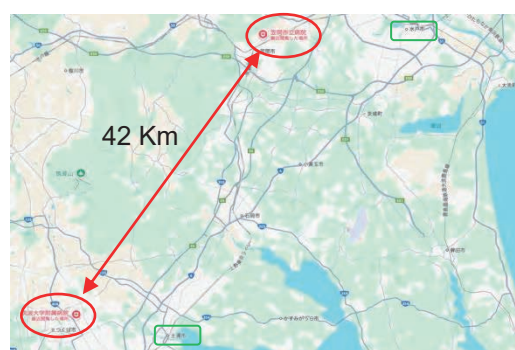
病院機能：

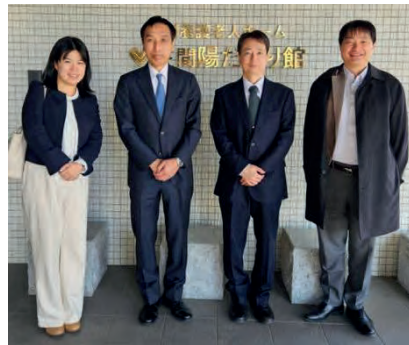
1. 回復期医療に専念、訪問診療、在宅医療を重視
2. 医療機関、福祉機関、行政機関の融合
3. 医師・歯科医師・薬剤師・看護師・リハビリ
（PT、ST、OT）・ケアマネジャー・介護士・
ソーシャルワーカーなど、多職種連携にてサポート

実習：

1. ケアマネ実習
カルテ無しで2～4名/1回担当、ケアマネと共に
患者宅を訪問し面接やケアプランを立案する。
生活臭、認知症、妄想状態の確認を行う。
2. リハビリ実習
廃用症候群、維持期リハ、嚥下評価・訓練
3. 栄養部実習 刻み食、とろみ食、嚥下訓練食
4. 薬剤部実習
5. 老健施設実習

併設施設：笠間陽だまり館（特養：定員70名、ショート：定員10名）





(2) 筑波大学総合診療科とのディスカッション

前野哲博先生、孫瑜先生、橋本恵太郎先生、鈴木広道先生（感染症）
木澤義之先生（緩和）、井上貴昭先生（救急）

設立の経緯：前野先生+木澤義之先生（緩和治療科）らが 1998 年に筑波メディカルセンター病院、2002 年に筑波大学に総合診療部（科）を開設

地域医療システム研究棟：

2011 年に地域医療再生基金（1.5 億円）にて建設。2 階建てで、研究室、事務スペース、会議室、シミュレーションルームなどが配置されている

寄附講座：1.54 億円 / 年、教員 14 名
茨城県内の複数の病院と連携



ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業

“地域医療の多様なニーズにシームレスに対応できるオールラウンダーの養成”

1. 感染症

【講義】基礎・臨床バラバラであるため統合

1 年生：2 コマ、4 年生：2 コマ、5 年生：選択クリニカル・クラークシップ合同、6 年生：4 コマ

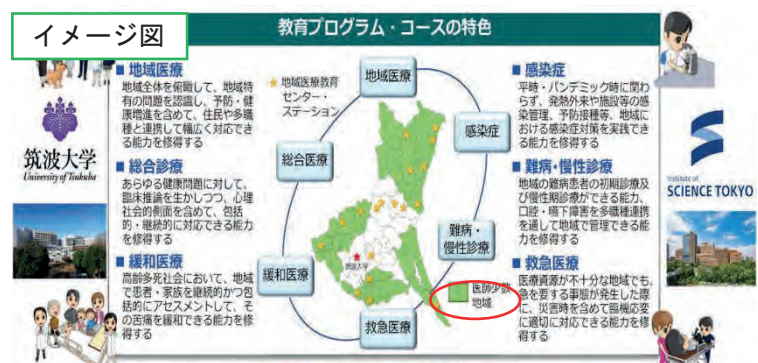
【実習】手指衛生、針刺しなど、DX+問題集を共同作成

2. 緩和治療

1、3、5、6 年生にプログラムあり、選択クリニカル・クラークシップ、院外だけでなく院内実習も含めた 2 週間の実習
学修 DX 15~30 分作成、学修閲覧システム（Manaba）構築

3. 救急診療（特に共同ではやっていない）

4 年生：災害医療と BCP（Business Continuity Plan）選択
5 年生：クリニカル・クラークシップシミュレーター

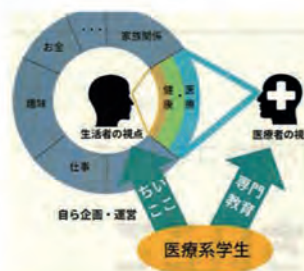


特徴：医師少数地域と2次医療圏が一致

4. その他

医療系学生コミュニティ

‘ちいここ」「地域と医療」のすべてが
ここにある



弘前大学様サイトビジットスケジュール

日程：令和7年3月10日（月）

時 間	内 容	場 所	担 当
10:00 ～ 12:00	茨城県の地域医療実習の見学	笠間市立病院	笠間市立病院副院長 稲葉崇 他 筑波大学医学医療系地域医療教育学 筑波大学附属病院総合診療科 教授 前野哲博、孫瑜、石川（事務担当）
12:00 ～ 14:30	昼食・移動		筑波大学医学医療系地域医療教育学 筑波大学附属病院総合診療科 教授 前野哲博、孫瑜、石川（事務担当）
14:30 ～ 15:00	ポストコロナGP取り組みの紹介と意見交換会（感染）	地域医療システム研究棟1F シミュレーションラボ事務室	筑波大学医学医療系感染症内科学 筑波大学附属病院感染症内科・感染制御部・検査部 教授 鈴木広達
15:00 ～ 15:30	ポストコロナGP取り組みの紹介と意見交換会（緩和）	地域医療システム研究棟1F シミュレーションラボ事務室	筑波大学医学医療系緩和医療学 筑波大学附属病院緩和支援診療科 教授 木澤義之
15:30 ～ 16:00	ポストコロナGP取り組みの紹介と意見交換会（救急）	地域医療システム研究棟1F シミュレーションラボ事務室	筑波大学医学医療系救急・集中治療医学 筑波大学附属病院 高度救命救急センター/救急・集中治療科 教授 井上貴昭
16:00 ～ 16:15	休 憩	—	
16:15 ～ 17:15	ポストコロナGP取り組みの紹介と意見交換会（全体）	地域医療システム研究棟1F シミュレーションラボ事務室	筑波大学医学医療系地域医療教育学 筑波大学附属病院総合診療科 教授 前野哲博、孫瑜、石川（事務担当）



地域医療実習施設（笠間市立病院）での施設見学及び意見交換の様子



事業紹介及び意見交換会の様子

【3】秋田大学における取り組み

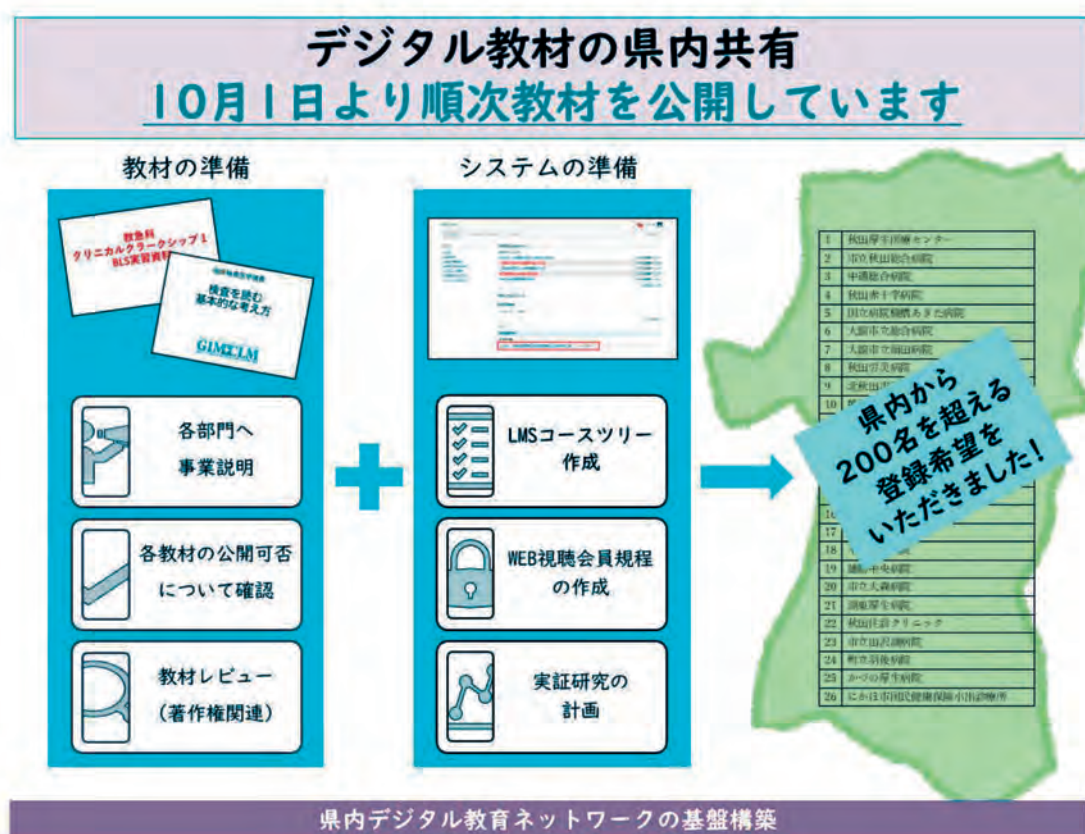
1. 県内医療機関との医学生教育用教材の共有

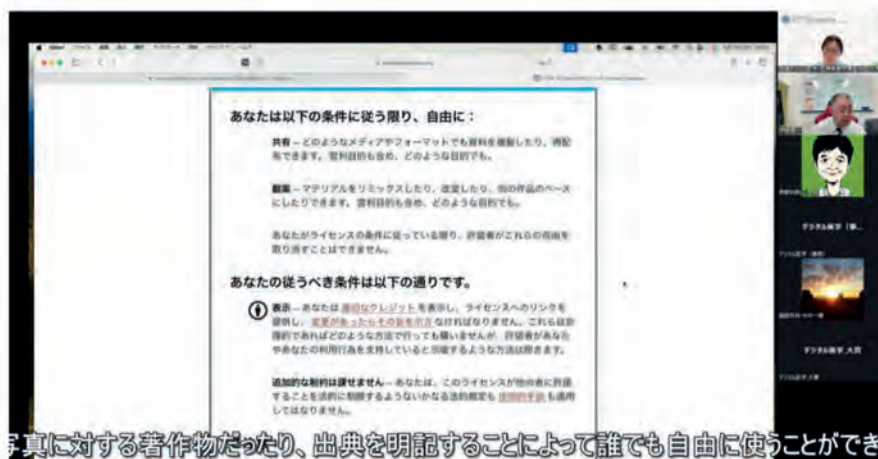
秋田大学医学部の臨床実習生を受け入れていただいている県内26の医療施設の医師に、秋田大学医学部の教員が作成したデジタル教材を共有する取り組みを開始した。これに先立ち、学内の各診療科への事業説明、各教材の公開可否についてのアンケート調査、先進デジタル医学・医療教育学講座の教員による教材のレビューといった教材の準備、ならびに秋田大学が使用しているラーニングマネジメントシステムであるWebClass内に、県内教材共有用のコースツリーの作成、Web視聴会員規程の制度策定、実証研究としての計画立案といったシステムの準備を行った。

令和6年6月13日には秋田大学産学連携推進機構伊藤慎一准教授より教材作成の際に留意すべき著作権の取扱いについて、令和6年9月10日には秋田大学医学教育学講座長谷川仁志教授と先進デジタル医学・医療教育学講座の及川沙耶佳特任教授よりWebClassの使い方についてのFDが開催された。

その結果、26施設の合計218名の指導医よりアカウント付与希望をいただき、全員に対して秋田大学医学部Web視聴会員の登録を行い、令和6年10月1日から教材を公開した。令和6年度は4年生以上を対象とした教材合計275を、15のカテゴリー（代謝・内分泌、全身・皮膚（悪性腫瘍）、公衆衛生、四肢・脊柱、外科、小児科・産婦人科、感染症、救急対応・判断、神経、精神（認知症含む）、胸部・背部、血液・膠原病、頭頸部）に分けて掲載している。

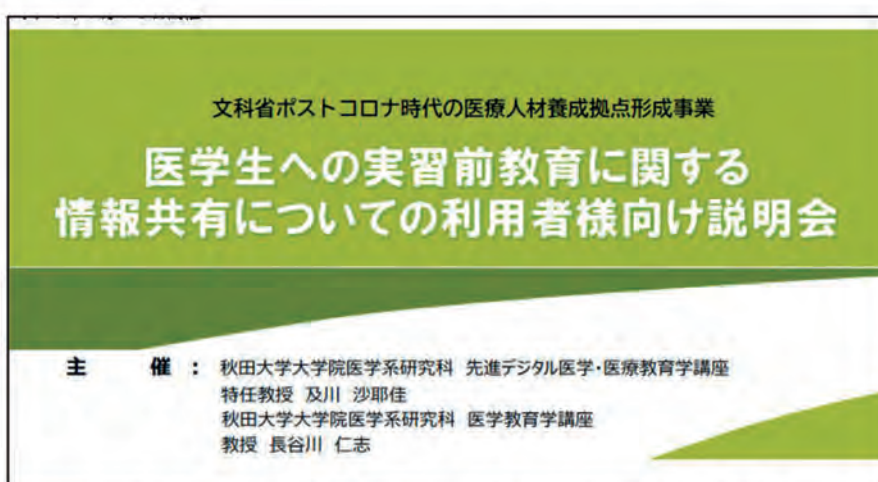
なお、これまで医学生の臨床実習については、WebClass上に各診療科ごとの教材が別々のコースツリーとして掲載されており、煩雑であった。これについて、臨床実習に関する教材全てを一つにまとめることによって、より利便性の高いラーニングマネジメントシステムの構築にも取り組んだ。





写真に対する著作物だったり、出典を明記することによって誰でも自由に使うことができる

令和6年6月13日開催FD 「教材作成の際に留意すべき著作権の取扱いについて」



令和6年9月10日開催FD 「WebClassの使い方について」

指導教員



学生



様々な「共有」による教育の活性化を目指す
共有教材 合計：275（重複あり）

2. 医学生向け復習用動画の作成と公開

秋田大学医学部では4年次後期から5年次前期にかけて医学医療総合講義を行っている。これは臨床実習を回り始めた医学生が、毎回異なるテーマや症例について、臨床推論能力の涵養を目的として行う実践的で双方向的な授業である。

現在、各診療科の教員が持ち回りで担当をしているが（下記予定表を参照）、どうしても臨床実習のローテーション時期によって学生間の症候に対する理解度に差が生じることがあり、これが臨床実習後OSCEの準備学習にも少なからず影響を与えていた側面があった。学生からは実技試験までに、臨床推論を復習したく、そのための動画教材などが欲しいとの声が上がっており、これに対して授業を録画し編集してWebClass上にアップロードし、学生がいつでも見返せるようなシステムを構築した。

許可の得られた授業については、授業の様子をzoomの録画機能を用いて録画し、必要であれば編集の上、WebClass上にアップロードしている。令和6年度は合計19の授業の動画を公開した。

令和5年度後期～令和6年度前期 医学医療総合講義 予定表
・CC1 毎週金曜日4・5コマ目(14:20～17:10)

担当日	コマ	テーマ・症例・場面ベース課題解決型 診療・初期対応の必修事項	主担当講座等名	依頼先(講座等主任)	講義担当教員	担当年度	副担当例
10月13日	4・5コマ目 (14:20～17:10)	臨床推論の必修実践ポイント1 ～実習前夜のチーム討論の進め方(TBL)	医学教育学講座	長谷川 仁志教授		R5後期	
10月20日	4・5コマ目 (14:20～17:10)	臨床推論の必修実践ポイント2 ～実習前夜のチーム討論の進め方(TBL)	医学教育学講座	長谷川 仁志教授		R5後期	
10月27日	4・5コマ目 (14:20～17:10)	腹痛	消化器内科学・神経内科学講座(消化器)	飯島 克則教授		R5後期	消化器外科、放射線科、腫瘍内科など
11月10日	4・5コマ目 (14:20～17:10)	腹痛	消化器内科学・神経内科学講座(神経)	飯島 克則教授		R5後期	脳外科、放射線科など
11月17日	4・5コマ目 (14:20～17:10)	胸痛・胸部痛、息切れ	循環器内科学講座	渡邊 博之教授		R5後期	消化器、心臓外科、放射線科など
11月24日	4・5コマ目 (14:20～17:10)	咳嗽	呼吸器内科学講座	中山 勝敏教授		R5後期	耳鼻科、呼吸器外科など
12月1日	4・5コマ目 (14:20～17:10)	血尿・蛋白尿	血液・腎臓・膠原病内科学講座(腎・膠原病)	高橋 直人教授		R5後期	泌尿器科など
12月8日	4・5コマ目 (14:20～17:10)	貧血 全身倦怠	血液・腎臓・膠原病内科学講座(血液)	高橋 直人教授		R5後期	腎臓病、総合診療など
12月15日	4・5コマ目 (14:20～17:10)	口渇 嘔気他(血糖に伴う症状 鑑別診断)	代謝・内分泌内科学講座	堀 裕典教授		R5後期	消化器科など
12月22日	4・5コマ目 (14:20～17:10)	発熱・不明熱1 ～抗生剤～	総合診療・検査診断学講座	堀本 重治教授		R5後期	血液内科、呼吸器内科など
1月12日	4・5コマ目 (14:20～17:10)	めまい	医学教育学講座	長谷川 仁志教授		R5後期	耳鼻科、神経内科、医療安全、法医学など
1月19日	4・5コマ目 (14:20～17:10)	嘔吐・下痢	消化器内科学・神経内科学講座(消化器)	飯島 克則教授		R5後期	循環器科、脳外科など
1月26日	4・5コマ目 (14:20～17:10)	しびれ	消化器内科学・神経内科学講座(神経)	飯島 克則教授		R5後期	脳外科、膠原病など
2月2日	4・5コマ目 (14:20～17:10)	動悸、失神	循環器内科学講座	渡邊 博之教授		R5後期	呼吸器科、内分泌、血液内科など
2月9日	4・5コマ目 (14:20～17:10)	呼吸困難	呼吸器内科学講座	中山 勝敏教授		R5後期	循環器、神経内科、呼吸器外科など
2月16日	4・5コマ目 (14:20～17:10)	関節痛 関節腫脹	血液・腎臓・膠原病内科学講座(腎・膠原病)	高橋 直人教授		R5後期	整形外科など
3月1日	4・5コマ目 (14:20～17:10)	出血傾向	血液・腎臓・膠原病内科学講座(血液)	高橋 直人教授		R5後期	
3月8日	4・5コマ目 (14:20～17:10)	内分泌疾患臨床推論・ピットホール	代謝・内分泌内科学講座	堀 裕典教授		R5後期	
R6年度 教員別進 開会	4・5コマ目 (14:20～17:10)	電解質・輸液、発熱・不明熱2(感染症のグローバル化)	総合診療・検査診断学講座	堀本 重治教授		R6前期	血液内科など
	4・5コマ目 (14:20～17:10)	嚥下障害、貧血・腹痛ピットホール	消化器内科学・神経内科学講座(消化器)	飯島 克則教授		R6前期	循環器、心臓外科、神経内科など
	4・5コマ目 (14:20～17:10)	意識障害・認知症・せん妄	消化器内科学・神経内科学講座(神経)	飯島 克則教授	飯島 克則先生	R6前期	脳外科、精神科、放射線科、小児科など
	4・5コマ目 (14:20～17:10)	不安 抑うつ もの忘れ せん妄	精神科学講座	三島 和夫教授	三島 和夫先生	R6前期	神経内科、脳外科など
	4・5コマ目 (14:20～17:10)	胸水、血痰、血液ガス分析	呼吸器内科学講座	中山 勝敏教授	佐藤 一洋先生	R6前期	内分泌、腎・膠原病、総合診療など
	4・5コマ目 (14:20～17:10)	浮腫	血液・腎臓・膠原病内科学講座(腎・膠原病)	高橋 直人教授	菅原 雄乃先生	R6前期	循環器、消化器など
	4・5コマ目 (14:20～17:10)	リンパ節腫脹 全身倦怠	血液・腎臓・膠原病内科学講座(血液)	高橋 直人教授	亀岡 吉弘先生	R6前期	
	4・5コマ目 (14:20～17:10)	高血圧、低血圧～血圧診断、治療の原則～	循環器内科学講座	渡邊 博之教授	佐藤 和典先生	R6前期	内分泌代謝など
	4・5コマ目 (14:20～17:10)	小児診断・発熱、腹痛等	小児科学講座	高橋 勉教授	田村 啓成先生	R6前期	
	4・5コマ目 (14:20～17:10)	腰痛、月経異常、産婦人科救急	産婦人科学講座	寺田 幸弘教授	菅原 多恵先生 小野寺 洋平先生	R6前期	消化器科など
	4・5コマ目 (14:20～17:10)	熱傷、災害トリアージ、外傷、脳外科救急	救急・集中治療医学講座(4コマ目) 脳神経外科科学講座(5コマ目)	中永 士師明教授 清水 宏明教授	奥山 孝先生 富樫 俊太郎先生	R6前期	外科、皮膚科、脳外科など
	4・5コマ目 (14:20～17:10)	骨折、腰痛部痛、発疹等	整形外科科学講座(4コマ目) 皮膚科学・形成外科科学講座(5コマ目)	宮藤 尚久教授 河野 通浩教授	和川 雄司先生 山川 岳洋先生	R6前期	循環器、心臓外科、泌尿器など
	4・5コマ目 (14:20～17:10)	尿尿異常、視野障害、泌尿器科救急、眼科救急	眼科科学講座(4コマ目) 腎泌尿器科学講座(5コマ目)	岩瀬 剛教授 羽瀬 友則教授	岩瀬 剛先生 山本 竜平先生	R6前期	神経内科など
	4・5コマ目 (14:20～17:10)	麻酔・集中治療のエッセンス、眼病、難聴、耳鼻科救急	麻酔・蘇生・疼痛管理科学講座(4コマ目) 耳鼻咽喉科・頭頸部外科科学講座(5コマ目)	新山 幸俊教授 山田 武千代教授	新山 幸俊先生 椎名 和弘先生	R6前期	
	4・5コマ目 (14:20～17:10)	死亡診断書、検案書、医療事故、医療安全	法医学講座(4コマ目) 医療安全管理講座(5コマ目)	奥作 宗太郎教授 木村 哲准教授	奥作 宗太郎先生 木村 哲先生	R6前期	感染制御など
	4・5コマ目 (14:20～17:10)	化学療法、ターゲッタル、看取り	緩和ケア(4コマ目) 臨床腫瘍学講座(5コマ目)	安藤 秀明教授 柴田 浩行教授	安藤 秀明教授 柴田 浩行教授	R6前期	
	4・5コマ目 (14:20～17:10)	公衆衛生エッセンス1	衛生学・公衆衛生学講座	野村 慈子教授	野村 慈子	R6前期	
	4・5コマ目 (14:20～17:10)	公衆衛生エッセンス2	衛生学・公衆衛生学講座	野村 慈子教授	野村 慈子	R6前期	
	4・5コマ目 (14:20～17:10)	特別企画(予備)				R6前期	
	4・5コマ目 (14:20～17:10)	特別企画(予備)				R6前期	
	4・5コマ目 (14:20～17:10)	中間試験(予定)				R6前期	

3. 臨床実習におけるデジタル技術の活用

秋田大学医学部の臨床実習において、デジタルを活用した事例が増えている。その一つとして総合診療・検査診断学講座の臨床実習におけるビデオを用いた振り返りがある。これは外来ブースに備え付けたAVシステムを活用して、医学生が実際の患者さんに対して医療面接をする様子を録画し、後で指導医と一緒に供覧しながら振り返るという実践である。こうすることにより、実際の様子を見ながら学生に実践的な学びを提供することが可能となっている。

医療現場で行われる手技は、ある学生には見学の機会が複数あるが、ほかの学生には全くないなど、opportunisticな学習となっている。これは臨床実習が乗り越えなければならない一つの壁である。これに対して秋田大学医学部では、より実践的な臨床実習を目指して、医療手技に対して動画教材を作成するという試みも行っている。これは一部秋田県が多職種連携教育事業とも連携をして、臨床現場で指導が必要な医療手技についての学習動画を作成する試みを始めている。



また、インクルーシブ支援として、聴覚障害を持つ医学生に対してのマイクロソフトのホロレンズを用いた取り組みも行った。これまでスマートフォンやタブレット端末で行っていたインクルーシブ支援を、ARグラスであるホロレンズで代用することで、医学生が両手が使えるようになり、より充実した臨床実習に繋がった。本実践は雑誌「医学教育」に実践報告として掲載された。



及川 沙耶佳, 荒巻 修治, 鷺谷 貴洋, 水戸部 一孝, 長谷川 仁志. 「Microsoft HoloLens2を用いた聴覚障害の医学生に対する臨床実習の報告」. 医学教育. 2024. 55. 4.

4. デジタルコンテンツを用いた試験

秋田大学医学部では1年生を対象として、より実際の臨床現場に即した内容の試験を行っているが、この際に実際の心エコーの動画や、聴診の音声を用いるなどデジタルコンテンツを用いた試験を行っている。

このようなデジタルコンテンツを用いた試験を含む事前学習教材を、より広範囲の診療科で実施することを目的として、令和6年11月25日に下記の内容でFDを実施した。

- (1) 臨床実習における「Mini-CEX」の導入及び「事前学習用教材」或いは「実習後ミニテスト」の導入について（中山勝敏学務委員長）
- (2) R7年度医学科シラバス作成に係るポイント及び新コアカリ導入に際してのアンケート調査実施について（医学教育学講座 長谷川仁志教授）



1年次のパソコンを使った医療面接に関する試験の様子

e-ラーニングの活用により動画や音声を工夫した実践的な試験を行ったり、事前・事後学習を充実することが可能となる。



参考；左前腕のレントゲン写真

例題 本症例について正しいものはどれか。

- (1) 三角巾は正しく巻かれている
- (2) シーネは良肢位で固定されている
- (3) シーネの遠位端が遠位手掌皮線を越えている
- (4) 橈骨神経麻痺を疑う
- (5) 橈骨遠位端骨折である

4. 外部評価

External Evaluation

【1】外部評価

令和7年2月14日（金）、本学医学研究科内（一部オンライン出席）において事業評価専門部会を開催し、外部評価を実施した。

日 時 令和7年2月14日（金）14：30～15：14
場 所 弘前大学大学院医学研究科大会議室
対象年度 令和6年度

《外部委員》

青森中央学院大学長 佐藤 敬
秋田県健康福祉部長 高橋 一也



オンライン出席の高橋秋田県健康福祉部長（右）と
守川青森県健康医療福祉部長（左）



青森中央学院大学 佐藤学長



事業評価専門部会の様子

「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」

「多職種連携とDX技術で融合した北東北が創出する地域医療教育コモンズ」事業
外部評価結果報告書

日 時 令和7年2月14日（金） 14時30分～15時14分

場 所 弘前大学大学院医学研究科 大会議室

対象年度 令和6年度

《外部委員》

青森中央学院大学長 佐 藤 敬

秋田県健康福祉部長 高 橋 一 也

《事業評価専門部会委員》

弘前大学大学院医学研究科長（地域基盤型医療人材育成センター長） 石橋 恭之

弘前大学大学院保健学研究科長 敦賀 英知

弘前大学医学部附属病院長 袴田 健一

弘前大学大学院医学研究科附属地域基盤型医療人材育成センター

医学教育学講座特任教授（地域基盤型医療人材育成センター副センター長） 鬼島 宏

弘前大学大学院医学研究科循環器腎臓内科学講座教授 富田 泰史

秋田大学大学院医学系研究科長 羽瀬 友則

青森県健康医療福祉部長 守川 義信

《外部評価方法》

本事業について、事業評価専門部会委員による自己評価実施後、外部委員による外部評価を実施する。

【外部委員による外部評価結果】

令和6年度

評価項目	委員 1	委員 2
実施体制	3	3
教育改革等	3	3
全体評価	3	3

（評語）

4：計画を上回って実施している／3：計画を十分に実施している

2：計画を十分には実施していない／1：計画を実施していない

【外部委員からの総評】

【委員 1】

実施体制としては、弘前大学の地域基盤型医療人材育成センター、秋田大学のデジタル医学・医療教育推進センターを中心として、連携4校の密接な連携の下に事業が進められている。

教育改革に関しては、弘前大学における多職種連携ワークショップ、防災医療人材育成、遠隔医療コミュニケーション、地域基盤型医学教育などの取組、デジタル活用医学教育をはじめとする秋田大学の取組が、いずれも強化されると共に、連携大学間での共有が進んでいる。また、デジタル教材については、地域の医療機関への公開も進められている。

全体として、事業のさらなる充実が図られ、計画を十分実施していると評価される。

【委員 2】

《実施体制》

連携4校による運営会議やシンポジウムの開催により、十分な連携の下、事業を展開する体制が構築されている。

《教育改革等》

令和5年度に引き続き防災士の育成や多職種連携実習のコースを開講し、継続的な人材育成に取り組んでいるほか、遠隔画像診断コースや、多職種連携ワークショップを開講するなど、教育体制の強化を図っている。

また、デジタル教育コンテンツの開発・共有を進めており、両大学で効果的に活用されている。

《全体評価》

各大学が、それぞれの特色を活かした質の高い教育を展開しており、地域医療を支える人材の育成に尽力している。

計画に則った教育プログラム等を開講し、教育の充実を図っているほか、プロジェクトも着実に進行しており、今後更なる成果が期待できる。

全体として、計画を十分に実施していると評価する。

【外部委員からの意見等】

【委員 1】

令和6年度は、事業全体として発展、充実がみられる。今後、個々の取組の継続と共に、連携大学間や地域との連携がさらに強化されることで、北東北の地域医療人材の育成につながる事業として期待される。

【委員 2】

医学部の学生が防災士の資格を取得することは、近年、自然災害が多くなっている両県にとって、重要な意味を持ち、災害発生時の大きな助けになると考えられる。

また、オンライン診療を意識した実習やデジタル教育コンテンツの開発等、DXの推進は、県土の広さに比し、医療資源が相対的に乏しい両県において、非常に期待されるものである。

5. 參考資料

Reference

弘前大学大学院医学研究科附属地域基盤型医療人材育成センター規程

令和4年9月21日

(趣旨)

第1条 この規程は、国立大学法人弘前大学管理運営規則（平成16年規則第1号）第5条第2項の規定に基づき、弘前大学大学院医学研究科附属地域基盤型医療人材育成センター（以下「センター」という。）に関し、必要な事項を定める。

(目的)

第2条 センターは、医師の地域偏在及び診療科偏在、地域構造の変化などの課題に対応するため、連携校及び協力校並びに協力機関と連携し、地域にとって必要な医療を提供することができる医療人材の育成に係る教育プログラムの開発・実施を行う教育拠点を構築することを目的とする。

(業務)

第3条 センターは、前条の目的を達成するため、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 総合的な視点（住民のライフサイクル、地域及び多職種連携等）を涵養する医療人育成に関すること。
- (2) 急性期・慢性期患者の複合的問題及びパンデミックや災害に対応できる医療人の育成に関すること。
- (3) 地域基盤型医療者教育を実践するための効果的な教材及び教育プログラム開発に関すること。
- (4) その他センターの目的の達成に必要な業務に関すること。

(他大学等との連携等)

第4条 センターの目的を達成するため、次の各号に掲げる連携校及び協力校並びに協力機関と協同で業務を実施する。

- (1) 連携校 国立大学法人秋田大学
- (2) 協力校 学校法人弘前学院弘前学院大学、学校法人弘前城東学園弘前医療福祉大学
- (3) 協力機関 青森県

(職員)

第5条 センターに、次の各号に掲げる者を置く。

- (1) センター長
- (2) 副センター長
- (3) 専任教員
- (4) 兼任教員
- (5) その他センター長が必要と認めた者

(センター長)

第6条 センター長は、研究科長をもって充てる。

2 センター長は、センターの業務を掌理する。

(副センター長)

第7条 副センター長は、センター長が指名する者をもって充てる。

2 副センター長の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、任期の末日は、当該副センター長を指名したセンター長の任期の末日以前とする。

3 副センター長が任期満了前に辞任し、又は欠員となった場合の後任者の任期は、前任

者の残任期間とする。

- 4 副センター長は、センター長の業務を補佐し、センター長に事故があるときは、その職務を代理する。

(兼任教員)

第8条 兼任教員は、センター長が指名する者をもって充てる。

- 2 兼任教員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、任期の末日は、当該兼任教員を指名したセンター長の任期の末日以前とする。

(運営会議)

第9条 センターの管理運営を円滑に行うため、センターに運営会議を置く。

- 2 運営会議に関し必要な事項は、別に定める。

(その他)

第10条 この規程に定めるもののほか、センターの運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、令和4年10月1日から施行する。

弘前大学大学院医学研究科附属地域基盤型医療人材育成センター
運営会議内規

令和4年9月21日

(趣旨)

第1条 この内規は、弘前大学大学院医学研究科附属地域基盤型医療人材育成センター規程第9条第2項の規定に基づき、弘前大学大学院医学研究科附属地域基盤型医療人材育成センター運営会議（以下「運営会議」という。）に関し、必要な事項を定める。

(審議事項)

第2条 運営会議は、弘前大学大学院医学研究科附属地域基盤型医療人材育成センター（以下「センター」という。）に関する次の事項を審議する。

- (1) センターの運営方針に関すること。
- (2) 教育プログラムの管理・運営等に関すること。
- (3) その他センターに関する重要事項に関すること。

(組織)

第3条 運営会議は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 理事（教育担当）
 - (2) 医学研究科長（センター長）
 - (3) 保健学研究科長
 - (4) 医学部附属病院長
 - (5) 医学教育学講座教授
 - (6) 連携校から推薦された者
 - (7) 協力校から推薦された者
 - (8) 協力機関から推薦された者
 - (9) その他センター長が必要と認めた者
- 2 前項第9号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 3 前項の委員の任期の末日は、当該委員を指名するセンター長の任期の末日以前とする。

(議長及び副議長)

第4条 運営会議に議長を置き、センター長をもって充てる。

- 2 運営会議に副議長を置き、議長が指名する委員をもって充てる。
- 3 副議長は、議長の職務を補佐し、議長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

第5条 運営会議は、委員の過半数の出席をもって成立する。

- 2 会議の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の出席)

第6条 議長が必要と認めたときは、委員以外の者を会議に出席させ、意見を聴くことができる。

(専門部会等)

第7条 運営会議に、必要に応じて専門部会等を置くことができる。

- 2 専門部会等に関し必要な事項は、別に定める。

(庶務)

第8条 運営会議の庶務は、医学研究科事務部において処理する。

(その他)

第9条 この内規に定めるもののほか、運営会議の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この内規は、令和4年10月1日から施行する。

弘前大学大学院医学研究科附属地域基盤型医療人材育成センター運営会議 委員名簿

(令和6年11月1日現在)

附属地域基盤型医療人材育成センター 運営会議内規第3条	氏 名	職名等
(1) 理事(教育担当)	岡 崎 雅 明	
(2) 医学研究科長	石 橋 恭 之	(センター長)
(3) 保健学研究科長	敦 賀 英 知	
(4) 医学部附属病院長	袴 田 健 一	
(5) 医学教育学講座教授	鬼 島 宏	(副センター長) 医学教育学講座 特任教授
(6) 連携校から推薦された者	羽 渚 友 則	秋田大学大学院医学系研究科長
	渡 邊 博 之	秋田大学医学部附属病院長
(7) 協力校から推薦された者	藁 科 勝 之	弘前学院大学長
	下 田 肇	弘前医療福祉大学長
(8) 連携機関から推薦された者	守 川 義 信	青森県健康医療福祉部長
(9) その他センター長が必要と認めた者	富 田 泰 史	循環器腎臓内科学講座 教授
	浅 野 研一郎	医学教育学講座 准教授

弘前大学大学院医学研究科附属地域基盤型医療人材育成センター運営会議の
専門部会設置に関する申合せ

令和4年9月21日

(設置)

- 1 弘前大学大学院医学研究科附属地域基盤型医療人材育成センター運営会議内規第7条第2項の規定に基づき、弘前大学大学院医学研究科附属地域基盤型医療人材育成センター運営会議（以下「運営会議」という。）に教育カリキュラム専門部会及び事業評価専門部会を置く。

(任務)

- 2 専門部会は、次に掲げる事項を検討する。
 - (1) 教育カリキュラム専門部会にあつては、教育カリキュラムの開発、編成及び広報等に関する事項
 - (2) 事業評価専門部会にあつては、事業評価に関する事項

(組織)

- 3 各専門部会は、検討課題に応じ、センター長が指名する者をもって組織する。

(部会長)

- 4 各専門部会に部会長を置く。
- 5 各部会長は、センター長が指名する者をもって充てる。
- 6 各部会長は、各専門部会を招集し、その議長となる。

(委員以外の出席)

- 7 各専門部会は、必要に応じて委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(報告)

- 8 各専門部会は、必要に応じて協議経過及び結果について、運営会議に報告するものとする。

(その他)

- 9 各専門部会の庶務は、医学研究科事務部が処理する。

附 則

この申合せは、令和4年10月1日から実施する。

教育カリキュラム専門部会 委員名簿

(令和6年11月1日現在)

職名等	氏 名	備考
弘前大学大学院医学研究科長	石 橋 恭 之	地域基盤型医療人材育成センター長
弘前大学大学院保健学研究科長	敦 賀 英 知	
弘前大学大学院医学研究科附属地域 基盤型医療人材育成センター 医学教育学講座特任教授	鬼 島 宏	地域基盤型医療人材育成センター 副センター長
弘前大学大学院医学研究科 循環器腎臓内科学講座教授	富 田 泰 史	
弘前大学大学院医学研究科附属地域 基盤型医療人材育成センター 医学教育学講座准教授	浅 野 研一郎	
秋田大学大学院医学系研究科長	羽 渕 友 則	
秋田大学大学院医学系研究科医学専攻 医学教育学講座教授	長谷川 仁 志	
秋田大学大学院医学系研究科医学専攻 総合診療・検査診断学講座教授	植 木 重 治	
秋田大学大学院医学系研究科医学専攻 先進デジタル医学・医療教育学講座 特任教授	及 川 沙耶佳	
弘前医療福祉大学副学長	土 澤 健 一	
弘前学院大学看護学部教授	大 瀬 富士子	

事業評価専門部会 委員名簿

(令和6年11月1日現在)

職名等	氏 名	備考
弘前大学大学院医学研究科長	石 橋 恭 之	地域基盤型医療人材育成センター長
弘前大学大学院保健学研究科長	敦 賀 英 知	
弘前大学医学部附属病院長	袴 田 健 一	
弘前大学大学院医学研究科附属地域 基盤型医療人材育成センター 医学教育学講座特任教授	鬼 島 宏	地域基盤型医療人材育成センター 副センター長
弘前大学大学院医学研究科 循環器腎臓内科学講座教授	富 田 泰 史	
秋田大学大学院医学系研究科長	羽 渕 友 則	
青森県健康医療福祉部長	守 川 義 信	
秋田県健康福祉部長	高 橋 一 也	※ 外部委員
青森中央学院大学長	佐 藤 敬	※ 外部委員

ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業に関する各種WG（弘前大学）

（令和6年4月1日現在）

多職種連携WG

所属・職名	氏 名
医学研究科 医学教育学講座 特任教授	鬼 島 宏
保健学研究科 教授	藤 田 あけみ
保健学研究科 教授	富 澤 登志子

遠隔診断・データサイエンスWG

所属・職名	氏 名
医学研究科 放射線診断学講座 教授	掛 田 伸 吾
医学研究科 医療データ解析学講座 教授	玉 田 嘉 紀

救急・被ばく・感染症WG

所属・職名	氏 名
被ばく医療連携推進機構 災害・被ばく医療教育センター 教授	伊 藤 勝 博
被ばく医療連携推進機構 災害・被ばく医療教育センター 助教	辻 口 貴 清
医学研究科 臨床検査医学講座 准教授 （感染制御センター長）	齋 藤 紀 先
医学研究科 臨床検査医学講座 講師 （感染制御センター副センター長）	糸 賀 正 道

■シンポジウム チラシ

令和4年度採択 文部科学省「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」

第3回 「多職種連携とDX技術で融合した北東北が創出する地域医療教育コモンズ」事業 シンポジウム

日 時：令和6年12月20日（金）15：00～17：00

場 所：アートホテル弘前シティ3階 サファイア

（〒036-8004 弘前市大町1-1-2）

選定された本学の事業は、北東北国立大学医学部2校および青森県内医療系私立大学2校が連携し、多職種連携教育を基盤とした総合的に患者・地域住民を診る資質・能力を持つ医療者教育により持続可能な地域医療共同体を北東北に構築することを目的としています。

【プログラム】

- ・ **開会挨拶** 弘前大学理事（教育担当） 岡崎 雅明
事業責任者
- ・ **特別講演** 演 題：「攻める医療～社会医学・地域医療学の教育戦略」
講 師：新潟大学大学院医歯学総合研究科
地域医療確保・地域医療課題解決支援講座
災害医学・医療人育成分野 特任教授 高橋 昌氏
- ・ **パネルディスカッション**
テーマ：「地域医療早期体験実習と多職種連携教育について」
コーディネーター：弘前大学大学院医学研究科医学教育学講座 特任教授 鬼島 宏
パネリスト：弘前大学医学部医学科3年 四戸 希
弘前大学医学部保健学科2年 八木澤 恵 梧
弘前大学医学部医学科1年 久寿良 優 衣
コメンテーター：新潟大学大学院医歯学総合研究科医療確保・地域医療課題解決支援講座
災害医学・医療人育成分野 特任教授 高橋 昌氏
秋田大学大学院医学系研究科医学専攻 先進デジタル医学・
医療教育学講座 特任教授 及川 沙耶佳
- ・ **閉会挨拶** 弘前大学大学院医学研究科長 石橋 恭之

■申込方法：

参加申込受付フォーム、またはFAX（0172-39-5209）、メール（cchpe@hirosaki-u.ac.jp）にて【所属】【氏名】【連絡先電話番号／メールアドレス】を明記の上、申込ください。

「多職種連携とDX技術で融合した北東北が創出する地域医療教育コモンズ」事業 シンポジウム
参加申込受付フォーム

<https://forms.office.com/r/V55X79xK6e>

■主 催：弘前大学・秋田大学・弘前学院大学・弘前医療福祉大学

■お問い合わせ：弘前大学医学研究科学務グループ

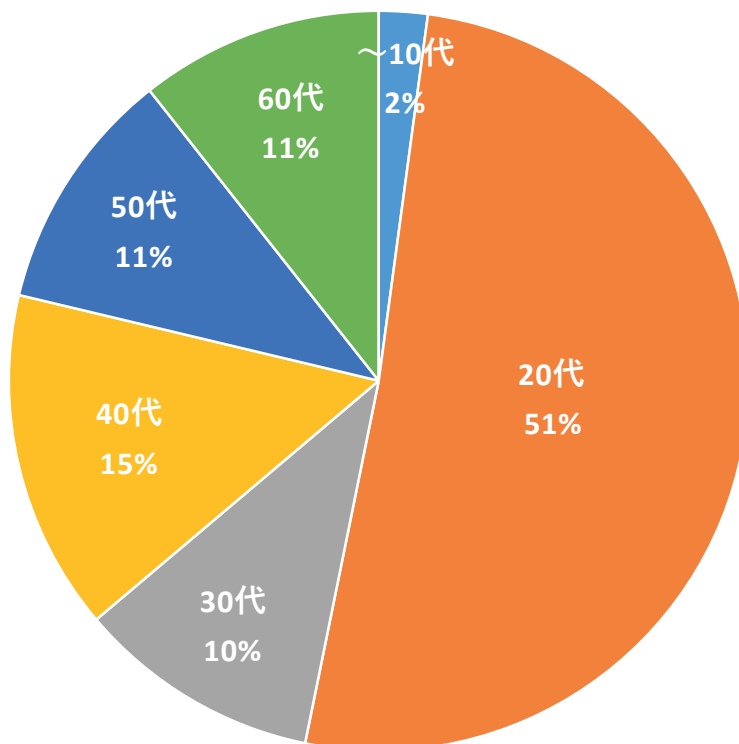
TEL:0172-39-5202 FAX:0172-39-5209 E-mail:cchpe@hirosaki-u.ac.jp



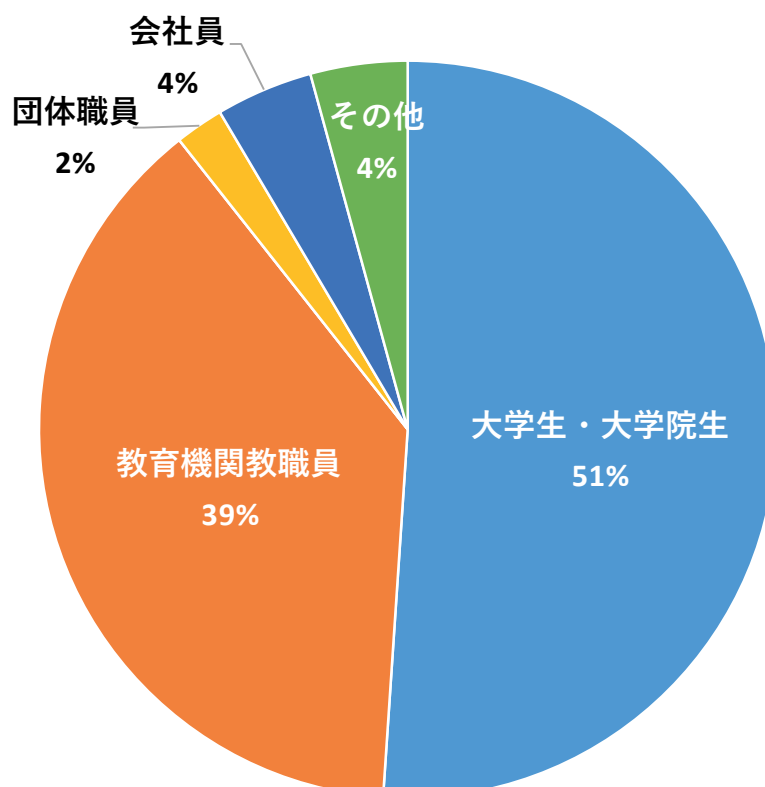
第3回「多職種連携とDX技術で融合した北東北が創出する地域医療教育コモンズ」事業 シンポジウム アンケート結果

1. 年齢

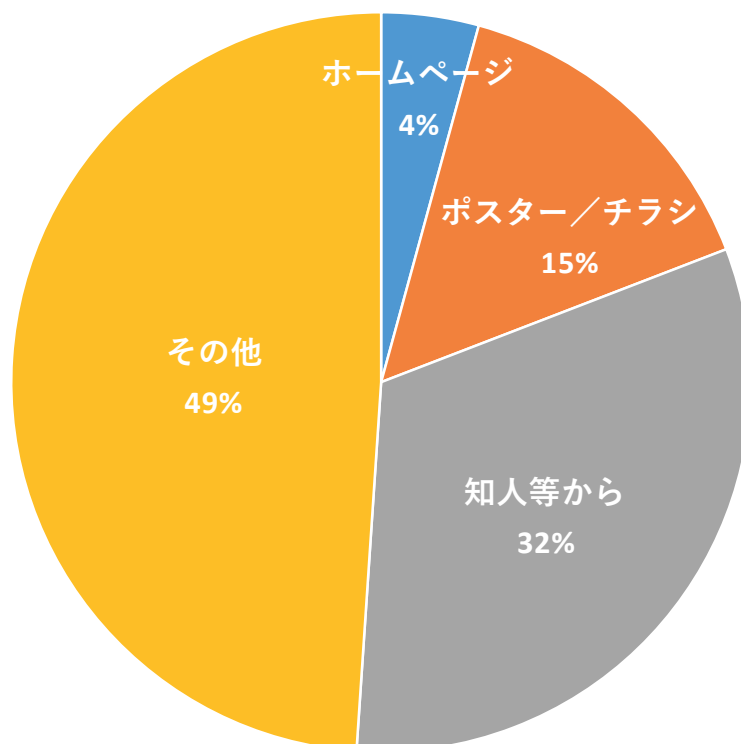
- ・参加者数 : 60名
- ・アンケート回答者数 : 47名



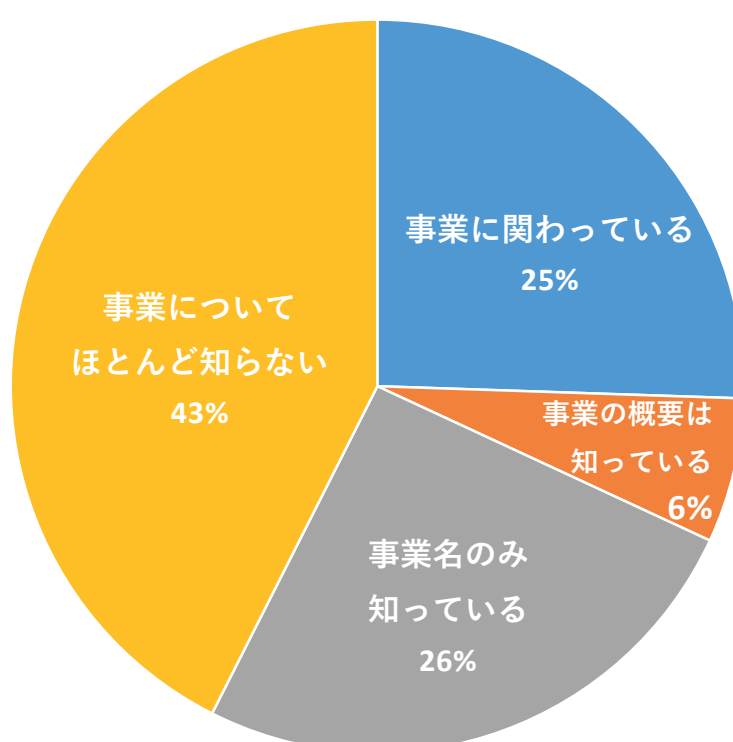
2. 職業等



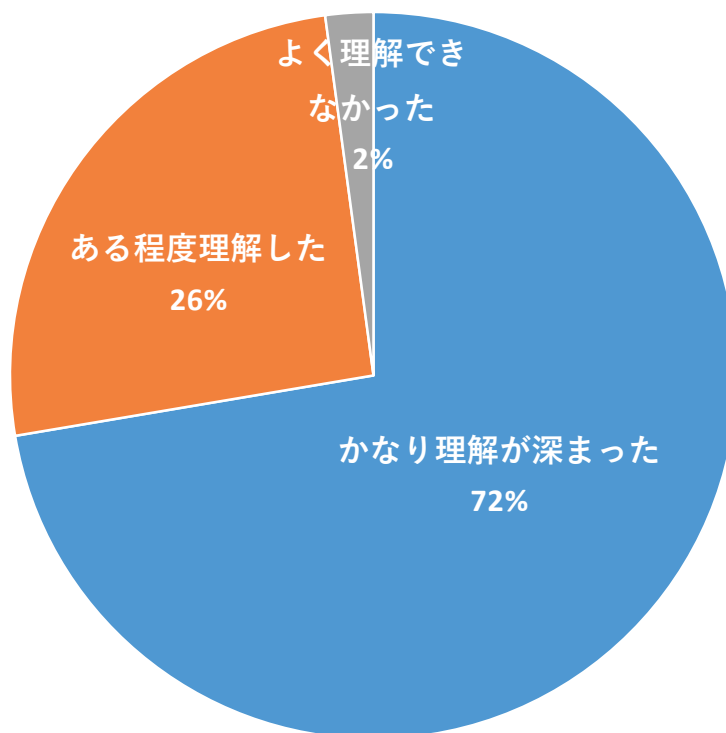
3. シンポジウムの開催を何で知りましたか？



4. 「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」をご存知でしたか？



5. 今回のシンポジウムで、事業への理解が深まりましたか？



6. これからの「多職種連携とDX技術で融合した北東北が創出する地域医療教育コモンズ」事業にどのようなことを期待しますか？（自由記述）

<抜粋>

- ・ とても良かったです。
- ・ 早期体験実習の学生の発表がすばらしく、その意義や効果が感じられた。
高橋先生の災害医療のとらえ方がとても心に響いた。
- ・ いつも学生さんの発表があることがとてもいいと思います。
- ・ 地域の枠を超えて、それぞれの県のノウハウを吸収していくこと。
- ・ さまざまな専攻からの意見を聞ける。
- ・ 今日の高橋先生の講演はとても面白かったです。

- ・ 行政との連携
防災士取得後の消防との連携（災害時での役割等）
- ・ 少子高齢化、医師不足の状況は今後も続くと思いますが、その中で無駄のない、最も多くの命を救うシステムが構築されること。
- ・ 今後も、北東北では医療人材が不足していくと思うが、すぐにはその状況を解決することはできないと思う。（人数的に）
そのため、技術を使って解決に近づけていくことを期待する。
- ・ 高橋先生がおっしゃっていた、新潟県で行っているコロナ感染者に対する対応システムを、北東北でも活用できたらなと感銘を受けました。
今までの「医師」の枠を超えた行動力や考え方を持つ人になりたいと思います。
- ・ 都心部の医療にまさる医療を北東北で実現してほしい。
- ・ 緊急時、その場に居合わせた人の対応で助けられる命があることを改めて考えさせられました。
もし自分が居合わせたら、勇気を出して対応できるよう、訓練にも参加したいと思います。
学生の3日間の実習についての発表がすばらしかった。
現場でしか感じられないこと、考えたことを今後も大事にしてほしいと思いました。
- ・ 医師偏在・働き方改革の影響を、コロナ禍を経験して（したからこそ）得られた知見を生かしてカバーできる手立てを見つけ出してほしいと思います。今後、大都市以外はどこも直面する課題だと思うので、その分野のトップランナーになるような展開を期待します。
高橋先生の講演が非常に興味深かったです。もっとたくさんの方に知ってほしい内容でした。
- ・ 学生の体験実習が非常に大切なことと感じました。
学生の発表がすばらしかったです。
高橋先生のご講演は、拝聴でき、今後に向けて勉強させていただき、新しい視点を得ることができました。
- ・ 新潟の医療に対する姿勢は素晴らしく思いました。
新潟が人口、医療体制等の観点から、コロナに対しての事業もやりやすかったというのもあるかもしれませんが、どの都道府県に行っても同様の体制（緊急・災害時）に対応できるよう整備されることを期待したいです。

- ・ 高橋先生のご講演がとても興味深く、内容も吸い込まれるような内容でした。
コロナ医療を例に、新潟医療（災害）の取り組みで、トリアージを取り入れていたのは正直驚きです。もっといろいろと聞きたい内容でした。
- ・ 医学生と看護学生を混ぜて実習するのが良い経験になるだろうなと思いました。ぜひ今後も続けてほしいです。
- ・ より効率的に医療が提供できるようになることを期待する。
医師不足、人口減少により、医療資源が不足する問題が深刻化すると考えられるので、医療に関わる全ての人間が協力し、関わっていく必要があると考える。そのような時代背景にある問題を解決できる事業となることを期待する。
- ・ とても有意義でした。

■医学教育センター主催FD チラシ

- 2024年度 - 医学教育センター主催FD (地域基盤型医療人材育成センター共催)

演題

『地域医療の多様なニーズにシームレスに対応できるオールラウンダーの養成』

講師

・孫 瑜 氏

筑波大学 医学医療系 地域医療教育学/ヘルスサービス研究分野 助教

ー 略歴 ー

2011年 筑波大学 医学群医学類 卒業
2017年 総合内科専門医取得
2019年 家庭医療専門医取得
2023年 筑波大学大学院人間総合科学研究科
ヘルスサービス研究分野博士学位取得終了



・橋本 恵太郎 氏

筑波大学 医学医療系 地域医療教育学 助教

ー 略歴 ー

2015年 筑波大学 医学群医学類 卒業
2021年 家庭医療専門医 取得



2024年 9月 9日 (月) 18:00~

◆ 場 所 : 基礎第二講義室

◆ 対 象 : 医学研究科及び附属病院教職員

お問い合わせ

医学研究科学務グループ 内線:6002 E-mail:cchpe@hirosaki-u.ac.jp

- 2024年度 -

医学教育センター主催FD

(地域基盤型医療人材育成センター共催)

テーマ

「青森県内臨床研修病院における
診療参加型臨床実習の魅力」

演者

弘前大学医学部医学科5年 竹内 健太
『青森市民病院での実習を経て』

弘前大学医学部医学科5年 今 優希
『八戸市立市民病院における臨床実習の魅力』

弘前大学医学部医学科5年 一戸 崇直
『弘前大学クリニカルクラークシップⅠ
健生病院外科での実習を終えて』

- ◆ 開催方式：オンデマンド配信
- ◆ 配信期間：2025年2月5日（水）～
3月31日（月）
- ◆ 対象：医学研究科及び附属病院教職員

お問い合わせ

医学研究科学務グループ

内線：6002

E-mail: cchpe@hirosaki-u.ac.jp

- 2024年度 - 医学教育センター主催FD (地域基盤型医療人材育成センター共催)

<弘前大学・秋田大学合同FD>

テーマ

「教育実践の共有 ～ 臨床実習編 ～」

講師

弘前大学大学院医学研究科
むつ下北地域医療学講座
(循環器腎臓内科学講座)

講師 石田 祐司

『学生のニーズを考慮した臨床実習+αを考える』

秋田大学大学院医学系研究科医学専攻
総合診療・検査診断学講座 教授 植木 重治

『デジタルを活用した臨床実習の試み
ー秋田大学総合診療・検査診断学講座ー』

2025年 3月 5日 (水) 17:00～

◆ 場所：基礎第二講義室 ※オンライン同時開催

<オンライン (Microsoft Teams) 参加用URL>

<https://teams.microsoft.com/l/meetup-join/19%3aRYyDif9fMAacJ5u2pIM-qgVBWeSR2sUhWgQodd-NOWU1%40thread.tacv2/1738644139881?context=%7b%22Tid%22%3a%2216153810-5294-41fd-ab1f-ff723bb2813b%22%2c%22Oid%22%3a%2209bd86be-89a2-45c6-8be6-c39585fff8c3%22%7d>

0-5294-41fd-ab1f-ff723bb2813b%22%2c%22Oid%22%3a%2209bd86be-89a2-45c6-8be6-c39585fff8c3%22%7d

◆ 対象：弘前大学医学研究科及び附属病院教職員
秋田大学医学系研究科及び附属病院教職員

お問い合わせ

医学研究科学務グループ

内線:6002

E-mail:cchpe@hirosaki-u.ac.jp



■ 連携教育施設におけるFD チラシ

弘前大学 医学部主催

令和 6 年度 弘前大学医学部連携教育施設 における FD

令和 7 年 2 月 13 日 (木), 14 日 (金)**両日とも 午後 4 時 00 分 ～ 午後 5 時 00 分**

※両日とも同じ内容となりますので、いずれかご都合のよい
日程にご参加くださいますようお願いいたします

現在、弘前大学医学部医学科では弘前大学医学部連携教育施設のご協力のもと、
5・6 年次学生が診療参加型臨床実習（クリクラⅠ・Ⅱ）を行っております。
今回は、医学教育及び診療参加型臨床実習の現状等について相互理解を深める
ことを目的として FD を開催いたします。

■ 実施方法 オンライン（Microsoft Teams）

■ 次第（1）挨拶

（2）説明（約 20 分）

① 弘前大学における医学教育の現状について

富田 泰史 弘前大学医学部医学科学務委員長

② 診療参加型臨床実習の現状について

漆館 聡志 弘前大学医学部医学科副学務委員長

（3）指導医等の先生方との意見交換（約 40 分）

対象者：臨床実習（クリクラⅠ・Ⅱ）をご担当いただいて
いる指導医等

【お問い合わせ先】

弘前大学医学研究科学務グループ

TEL : 0172-39-5204 / Mail : jm5204@hirosaki-u.ac.jp

令和4年度採択 文部科学省「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」
「多職種連携とDX技術で融合した北東北が創出する
地域医療教育コモンズ」事業
令和6年度 事業成果報告書

発 行 日 令和7年7月

編集・発行 国立大学法人弘前大学大学院医学研究科
附属地域基盤型医療人材育成センター
〒036-8562 青森県弘前市在府町5
TEL 0172-39-5202 FAX 0172-39-5209
E-mail cchpe@hirosaki-u.ac.jp
Web <https://www.cchpe-hirosaki-u.jp/>

【代表校】

国立大学法人弘前大学

【連携校】

国立大学法人秋田大学

【協力校】

学校法人弘前学院 弘前学院大学

学校法人弘前城東学園 弘前医療福祉大学